

言方の鮮朝部南

323

553



始



321-553



凡例

朝鮮語智海贈本

一、本書は南部朝鮮に於ける朝鮮語方言の分布状態を示したものである。
一、本書は余が自ら過去十餘年間に亘り南部朝鮮地方の方言を調査したものに就き整理を加へたものである。而して其の調査を行つた地方は次の如くである。

- 忠清北道 清州、忠州、槐山、鎮川、永同。
- 忠清南道 天安、烏致院、禮山、沔川、海美、洪城、廣州、扶餘、公州、江景。
- 全羅北道 群山、全州、任實、南原、金堤、井邑、錦山、光州、玉果、谷城、求禮、順天、光陽、麗水、長興、海南、木浦、咸平、靈光、羅州、長城。
- 全羅南道 大邱、金泉、知禮、尙州、咸昌、聞慶、醴泉、榮州、安東、義城、青松、盈德、興海、浦項、慶州、永川。

凡例

正 4. 2
大 茂 朱
寄 贈
高 興 篋
寶 城

慶尙南道 蔚山、東萊、釜山、金海、密陽、昌寧、陝川、居昌、馬山、巨濟
統營、晋州、河東、南海。

江原道 杆城、襄陽、注文津、江陵、蔚珍、平海。

一、前項記載地名以外、地名を逸するものは余の自ら調査する機会を得なかつた地方である。しかも敢て其等の地名を挙げざる所以のものは、記事の精確を期する目的に出でたもので、他日何人かの力によつて増補せられんことを期待して居る。

一、各地方の方言の特質は調査の度毎に、諸雜誌に發表した。委細を知られんとする人は左の記事を参照せられたい。

濟州島方言〔朝鮮及滿洲〕 大正二年三月。

慶尙南道方言〔朝鮮彙報〕 大正四年四月。

慶尙南北道方言〔朝鮮彙報〕 大正五年五月。

忠清南道の方言について〔朝鮮教育研究會雜誌〕 大正七年八月。

全羅南道方言〔朝鮮教育研究會雜誌〕 大正八年五・六月。

全羅北道及び忠清北道方言〔朝鮮教育〕 大正十一年二月。

慶尙北道方言〔朝鮮教育〕 大正十二年三月。

嶺東方言〔朝鮮〕 大正十二年七月。

一、本書は便宜上、音韻・語法・語彙の三部に分つて分布の状態を示した。

一、語彙編中、길(路)을길, 김(海苔)을김, 기둥(柱)을지둥などいふ如く、kのchに變じ、형(兄)을형, 힘(力)을힘などいふ如く、hのSに變じ、それが各道に一般に行はれる場合には、特別の場合を除く外はすべて之を省略することにした。

一、語彙編中ㅅ치(繭)을ㅅ치, 도마(俎)을도마といふ如く、母音の一部の轉訛に過ぎざるものは、特別の場合を除く外は列舉せぬことにした。

一、蒐集せられた語彙は其の數極めて多數に達するけれども、一々之を列舉する遣が無い。故に本編に於ては其の中の重なるもの二百七十餘語を提示することにした。而して掲出の方法は先づ京城語を代表語として挙げ、其の下に各地の方

凡 例

言を記入した。

一、本書の参考論文として左の三編を添附した。

一 新羅語と慶尙北道方言。

二 朝鮮語の歴史的研究上より見たる濟州島方言の價值。

三 對馬方言と朝鮮語との交渉

一、分布の状態を明かならしめるため、卷末附録として音韻分布圖及び語法分布圖を添へた。

四

大正十三年三月

編 者

南部朝鮮の方言目錄

第一編 音 韻

一、○	一
二、야	二
三、여	三
四、피	四
五、요	七
六、유	二
七、외	二四
八、위	二九
九、의	三二
一〇、와	三三

目 録

一

一一、워 : 三六
 一二、왜 : 三九
 一三、워 : 四一
 一四、기·저 : 四三
 一五、히·혀 : 四三
 一六、△ : 四四
 一七、빙 : 四五
 一八、이音の逆行同化 : 四六
 一九、文アクセント : 四七

第二編 語 法

一、외 : 四九
 (イ) ㅍ·ㅑ·ㅑ·ㅑ·ㅑ·ㅑ : 四九
 (口) 가 : 五三

二、다·더 : 五六
 三、것·것·것 : 五八
 四、우·유 : 六一
 五、수·시유 : 六二
 六、ㅂ니다·ㅂ니다 : 六三
 七、ㅂ네 : 六四
 八、ㄴ더 : 六五
 九、시더 : 六七
 一〇、는기오 : 六九
 一一、는게라오 : 七二
 一二、ㄴ게라오 : 七四
 一三、저라오 : 七五
 一四、외라오 : 七五

一五、 지라오 七六
 一六、 거라오 七八
 一七、 라오 七九
 一八、 겨 八〇
 一九、 시오 八一
 二〇、 르세·로세·세·시·새 八二
 二一、 口혀 八五
 二二、 올습니다 八六
 二三、 口列 八六
 二四、 르세 八七
 二五、 지려·지를 八七
 二六、 라 八八
 二七、 르다 八八

二八、 야 八九
 二九、 다야 九〇
 三〇、 지야 九一
 三一、 케·죄·자·장·주 九二
 三二、 르나「르난·르니」 九四
 三三、 르낙하 九七
 三四、 게라오「거라오」 九九
 三五、 시가오 一〇〇
 三六、 소 一〇〇
 三七、 시시오 一〇〇
 三八、 시소 一〇一
 三九、 시시소 一〇一
 四〇、 게나 一〇一

四一、시디다……………101
 四二、시시디다……………101

第三編 語 彙

가……………105
 나……………113
 다……………116
 마……………110
 바……………113
 사……………111
 아……………114
 자……………118
 차……………111
 카……………111

라……………113
 파……………113
 하……………114

第四編 參考論文

一、朝鮮語と慶尙北道方言……………117
 二、朝鮮語の歴史的研究上より見たる濟州島方言の價值……………118
 三、對馬方言と朝鮮語との交渉……………117

附 圖

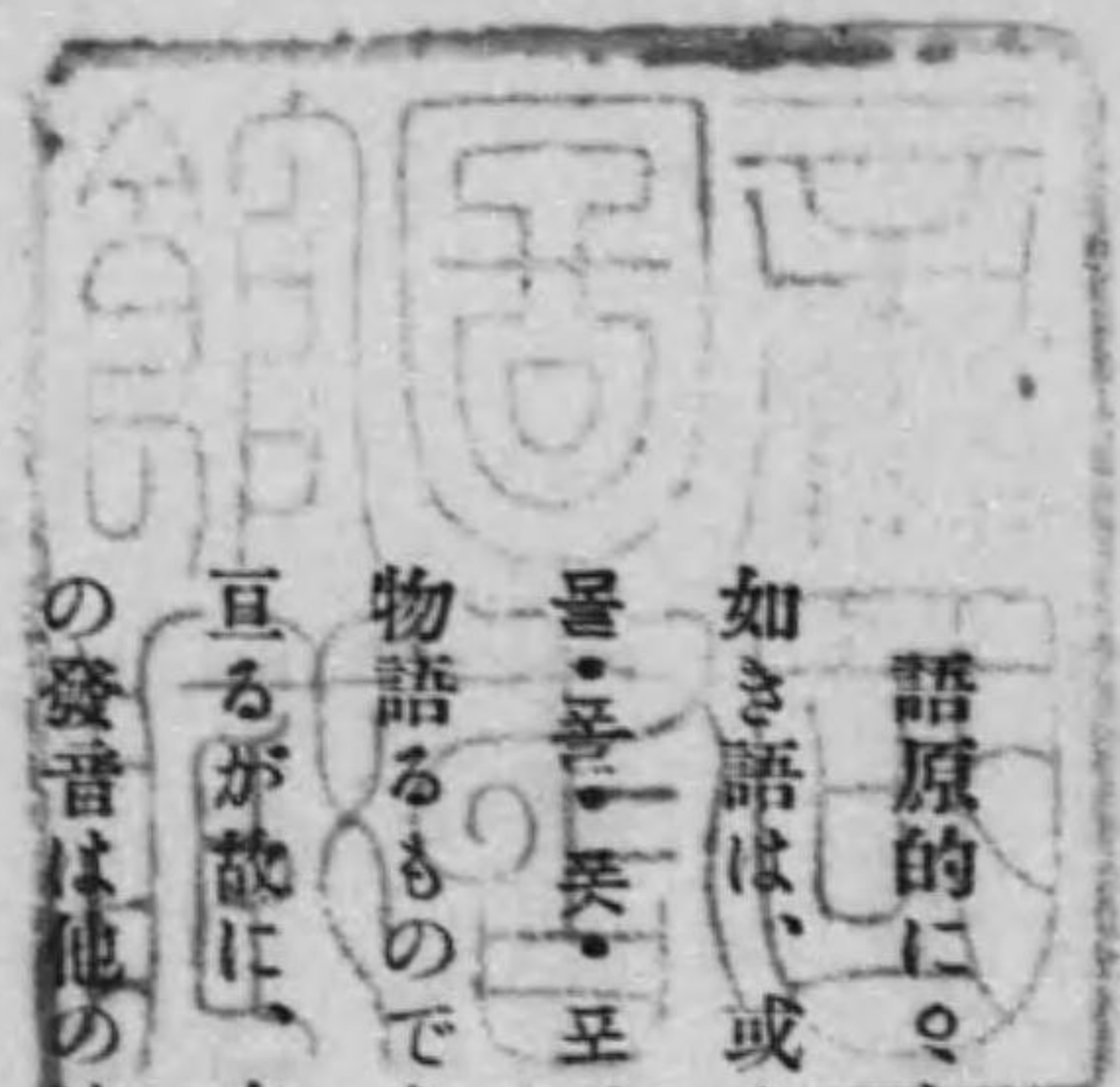
一、音韻分布圖……………〔十六葉〕
 二、語法分布圖……………〔十葉〕

南部朝鮮の方言

小倉進平編

第一編 音韻

一。



語原的に[○]を以て書かれる語、例へば[○]馬(馬)・[○]臂(臂)・[○]豆(小豆)・[○]孺(蠅)等の如き語は、或る地方に於ては[○]말・[○]팔・[○]파리[○]の如く[○]ㅁの音となり、或る地方に於ては[○]물・[○]ㅁ·[○]ㅁ리[○]の如く[○]ㅁの音となる。これ[○]の原音が[○]ㅁと[○]ㅁとの中間音たることを物語るものであつて、朝鮮語史上頗る重要な價値を占むるものであるが、事餘論に亘るが故に、本篇に於ては其の説明を省略することにした。但し濟州島に於ける[○]の發音は他の地方と些か其の趣を異にし、[○]ㅁと[○]ㅁとの中間音であるが、本篇に於ては便宜上姑く[○]の部に屬せしめておく。今[○]を[○]と發音する地方を表示すると次の

如くである。(音韻分布圖第一圖参照)

【忠清北道】 無し。

【忠清南道】 無し。

【全羅北道】 南原・井邑(任實及び金堤に於ては)
ハ、五兩音を存す

【全羅南道】 語によつてハ及び五の兩音に通はしいふものがあるけれども、大部
分である。

【慶尙北道】 無し。

【慶尙南道】 河東・南海・統營・巨濟・馬山・東萊・蔚山等南海岸地方。

【江原道東海岸】 無し。

以上により、のオとなるのは全羅南道を主要なる地方とし、全羅北道の南部、慶
尙南道の南部地方に分布せるを知ることが出来る。

「和漢三才圖會」等に하(天)を「波乃留」(はのる)、말(馬)を「毛留」(もる)など
あつて、朝鮮語の「、」に對してオ列の音を用ひて居るものが多いのを見ると、「、」

の音に古くから一種の特質を具へて居たことを知るに足るべく、此等は「、」の原
音を研究する上に最も重要な資料となるべきものである。

二 ㅅ

ㅅと組合つた音の中、ㅅは語中にあつてㅅとなることがある。例へばㅅ랑(五兩)
을ㅅ랑・측랑(測量)을ㅅ랑といひ、밀양(密陽)을밀양・초랑(草梁)을초랑と
いふが如きは之に屬するもので、分布の状態は極めて狭い。但しが랑(假量)을가
랑といふ所は各道に可なり多い。(音韻分布圖第二圖参照)

【慶尙南道】 密陽(「五兩」을ㅅ랑、「密陽」을밀양の如くいふ) 昌寧(「故郷」을고향の如くいふ) 等。

三 ㅁ

ㅁの音は地方によつて各種の變化を起す。今之を字音及び本來の朝鮮語の二項に分
つて説明する。

1) 字音

病(병)・別(별)・片(편)・京(경)の如きは何れも여の母音を有するものである。而して此等は地方によつて에・의・이等各種の音に變するが、其の分布の状態は次の如くである。(音韻分布圖第三圖參照)

【忠清北道】

(イ)原音の通りに「京畿道」(경기도)・「病院」(병원)等と發音する地方。清州。忠州。鎮川(但し「經營」(경영)を명동とも、(경동)とする)

(ロ)「京畿道」(경기도)を「경기도」・「病院」(병원)を「병원」等といふ如く여を에に轉ずる地方。永同。槐山(槐山地方では여・이相半ばする)。

【忠清南道】

(イ)原音を存する地方。禮山。沔川。瑞山。海美。洪城。安眠島。廣川。保寧。

藍浦。鴻山。青陽。烏致院。(但し鴻山・青陽地方では「青陽」(청양)を세양、「輕便鐵道」(경철도)を명철도、「別」(별)を벨로히と轉じ、여の音に發音することがある。)

(ロ)에に發音する地方。扶餘。公州。江景。(此の地方に於て「江景」(강경)을강명이라고發音するが如きも其の例である。但し語によつて여の正音を保存するものも少なくない。)

【全羅北道】

(イ)原音を存する地方。全州。任實。錦山。(上記の地方にありても「夕陽」(서양)을세양といふ如く여に轉ずる例もある)

(ロ)에に發音する地方。南原。井邑。金堤。茂朱。群山。

【全羅南道】

(イ)原音を存する地方。咸平。靈光。

(ロ)에に發音する地方。光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。突山。麗水。高興。筏橋。寶城。長興。海南。木浦。羅州。長城。莞島。(「京畿」(경기)를명기、「夕陽」(서양)를세양、「片紙」(편지)를편지、「聖人」(성인)를성인、「病院」(병원)를명원といふが如きは何れも此の地方に盛んに行はれるものである。又長興附近に於ては上述の如く多く여に轉ずるけれども「經」(경)를명「病」(병)를명、「平」(평)를명等の如く原音の)。

(ハ)에に發音する地方。「病」(병)の音は突山・海南・木浦・莞島方面では병に變ずることがある。

【慶尙北道】

- (イ) 原音を存する地方。聞慶。榮州。安東。青松。
- (ロ) ㄷ에に發音する地方。金泉。知禮。
- (ハ) 原音の外、ㄷにも發音する地方。(「壁」を벽、「病」を병、「別」を별と原音通りに發音する外、之を뵈・뵈・뵈の如くにも發音する類)。大邱。尙州。咸昌。義城。
- (ニ) 原音の外、ㄷ或はㄷにも發音する地方。(「壁」を벽の外벽・뵈に、「病」を병の外병・뵈に、「別」を별の外별・뵈に發音する類)。興海。浦項。慶州。永川。星州。
- (ホ) 原音の外、ㄷ或はㄷにも發音する地方。(「壁」を벽の外벽・뵈、「病」を병の外병・뵈、「別」を별の外별・뵈に發音する類)。醴泉。
- (ヘ) ㄷ及びㄷ의の兩音に發音する地方。(「京」[經]を경・깁、壁(벽)を벽・뵈、「病」[병]を병・뵈、「別」[別]を별・뵈)を別・뵈に發音する類)。盈德。

【慶尙南道】

- (イ) ㄷ에に發音する地方。巨濟。統營。南海。河東。馬山。陝川。居昌。
- (ロ) ㄷ의に發音する地方。昌寧。密陽。(昌寧に於ては「京」[經]を깁、「壁」を벽、「病」を병とのまゝ發音するが、密陽地方では「京」[經]等を原音)。
- (ハ) 原音の外、ㄷにも發音する地方。蔚山。東萊。(兩地方とも「壁」を벽、「病」を병、「別」を별と「京」[經]を깁といふ)。

【江原道東海岸】

에に發音する地方。杆城。襄陽。注文津。江陵。三陟。蔚珍。平海。

(但し蔚珍地方ではㄷ의の音をも併用する)

以上によりㄷ音(字音)分布の狀況を案するに、

(一) ㄷ의の原音を存する地方は忠清南北兩道及び慶尙北道の大部分、全羅北道の中部

(錦山・任實) 慶尙南道の東部(蔚山)、全羅南道西方の一部分(靈光)等で、大體に於て

京畿道より忠清南北・慶尙北道に亘り、半島を横斷せる如き形勢を示して居る。

(全南靈光地方が其の周圍と趣を異にし、ㄷ의の原音を存するが如きは頗る異様に感ぜられるが、これ同邑の東方に馬峙なる險阪あり、東方との交通不便に、一方西海岸にある法聖浦が京城方面との交通の唯一の門

戸たる關係に基く)。ものてあらう。

(二) 여の에に發音せられる地方は、全羅南道一圓を主要なる地とし、之に慶尙南道の西半部、全羅北道の大部分(中央部錦山・全州・任實地方は여の原、音を存すること前條に述べた通り)及び此等三道に隣接せる慶尙北道・忠清南道の一部(金泉・知禮及び公州・扶餘・江景等)が加はり、更に江原道の海岸に分布して居る。つまり여系のもものが京城系の여によつて中斷せられたやうな形勢を示して居る。

(三) 여の이に發音せられる地方は、慶尙南道の蔚山・東萊を以て中心地とし、慶尙北道の東南部(永川・慶州・浦項・興海・盈徳)に影響を及ぼして居る。

(四) 여の이に發音せられる地方は、慶尙南道昌寧を以て最も顯著なるものとし、慶尙北道の中央部(大邱・尙州・咸昌・醴泉・義城・永川・慶州・浦項・興海等)に多少の影響を及ぼして居る。

「和漢三才圖會」其の他徳川時代の書に백성(百姓)を「波久世岐」(はくせぎ)、형(兄)を「閉岐」(へぎ)、경상(慶尙)を「けくしやく」など記してあるのを見ると、字音中여音を以てあらはされる語は、古くは여にも變ずるが如き傾向の存したこと

を知るに足るのである。

朝鮮語

며느리(婦)・쉬(舌)・벼슬(職)・벼룩(蚤)・별(星)・베기(枕)・하면(するな)・하겟소(つた)の如きは何れも여の音を含んだ純粹の朝鮮語である。此等は地方によつて에・이・이等各種の音に變ずるが、其の分布状態は次の如くである。(音韻分布圖第四圖參照)

【忠清北道】

- (イ)에に發音する地方。殆んど全部。
- (ロ)어に發音する地方(어렵다(難)을 어렵다, 하면(するな)을 하면, 새벽(曉)을 새벽とする類)。突發的であつて地方名を明示することが出来ぬ。

【忠清南道】

- (イ)에に發音する地方。殆んど全部。(北陽)여니리(婦)・벼슬(職)・벼룩(蚤)の如き、殆んどるが、별(星)・베기(枕)の如きは地方によつて夫々異なつた發音をする。本條(ロ)・(ハ)の條參照)

(ロ)に發音する地方。별(星)なる語は全道に亘つて별の如く發音されるけれども、此の變化は一般に微弱である。但し、江景地方に於て비(枕)を獨り비(本道内他の地方では)といふのを見るこ、此の地方に於て稍々い變化の強いこと(비¹又は비²となる)を知るに足るのである。

(ハ)에に發音する地方。비(枕)なる語は全道に亘つて비の如く發音される(扶餘は비¹、江景は비²)けれども、前條(イ)に比すれば此の變化の力は極めて微弱である。要するに本道にありては、여の에に變化する現象を以て特質とすべきである。

【全羅北道】

(イ)에に發音する地方。殆んど全部。(但し가법다(輕)새벽(曉)の如きは全道に互)。(ロ)이に發音する地方。별(星)及び비(枕)なる語は本道の大部分に於て별(實任)・비(全州・任)と發音せられるけれども、其の勢力は極めて微弱である。(ハ)에に發音する地方。새벽(曉)なる語は本道の大部分(群山・全州)に於て새벽と發音されるけれども、前條同様其の勢力頗る微弱である。

要するに本道に於ても、여の에に變化する現象を以て特質とすべきである。

【全羅南道】

(イ)原音を存する地方。靈光。咸平。
(ロ)에に發音する地方。大部分の地方。(次に述べる如く各地方に種々の變化が存するけれども) (ハ)이に發音する地方。突山。(此の地方にありては「星」を별、「婦」を미녀리、「舌」을시、「職」을미시
いふ。但し星を별といふことは高興(寶城) 長興・海南・木浦・莞島・智島まで及んで居る) 長興・海南・木浦・莞島・智島まで及んで居る) (二)에に發音する地方。莞島・木浦・海南。(此等の地方にありては殆んど規則的に「婦」을미녀
の如く發音するのてある。)

(ホ)에に發音する地方。하면(するな)・새벽(曉)・가법다(輕)なる語は本道の大部分に亘つて하면・새벽(或は)・가법다(或は)と發音せられるけれども、其の勢力たる本道の特質とするに足らぬ。

要するに本道に於ては여系のもものが最も主要な位置を占めて居るけれども、南方沿岸地方には突山を中心とする이系、木浦・海南・莞島に行はれる의系の存す

ることを注意せねばならぬ。

【慶尙北道】

(イ)에に發音する地方。金泉。知禮。青松。

(ロ)에に發音する地方。星州。永川。大邱。尙州。開慶。咸昌。安東。義城(但し開慶

では詞(舌)を例、安東では서。義城では州といふことがある。)

(ハ)에に發音する地方。醴泉。榮州。慶州。浦項。盈德。(但し醴泉では田倉(職)を例、

이に轉ずるものが。ある(前條參照)。

(ニ)에に發音する地方。하면を하면(興海・浦項等)・가법다(輕)を기잡다・기법다などいふ

地方があるけれども、本道の特質をなすものと見るこゝが出来ぬ。

要するに本道に於ける여の分布は、中部に於ける이系と東部に於ける이系(榮州・醴泉

の如く中央部に孤立せるものもあるが)とを主要なるものとし、西南の一小部に이系を存することにな

るのである。

【慶尙南道】

(イ)에に發音する地方。巨濟。統營。南海。河東。馬山。居昌。陝川。

(ロ)에に發音する地方。昌寧。密陽。

(ハ)에に發音する地方。蔚山。東萊。

要するに本道に於ては、中部以西に於ては에、東部に於ては이、中部の中慶尙北道に接する地方にありては이に發音せられることを知るのである。

【江原道東海岸】

에に發音する地方。全部。(但し平海では예。星)을을といふ。

以上により여音(純粹の朝鮮語)分布の狀況を案ずるに、

(一)여の原音を存する地方は殆んど無い。(全羅南道西海岸に。一部存するのみ。)

(二)여の에に發音せられる地方は、大體に於て慶尙北道の大部分を除ける他の部分に廣く互つて居る。

(三)여の이に發音せられる地方は、慶尙北道の中部一帯より慶尙南道の一部(慶尙北道

昌寧・密陽附近)に及び、又全羅南道突山を主要地として木浦に至る南海岸に行はれ、進ん

で全羅北道に多少の影響を及ぼして居る。

(四) 여의에 發音せられる地方は、東萊より盈徳に至る海岸を主要地とし、慶尙北道内部の醴泉・榮州に多少の影響を及ぼし、又全羅南道木浦・海南・莞島地方に飛び離れて存在して居る。

「和漢三才圖會」其他徳川時代の書に 별(星)을「べる」・ 열(十)을「るる」など記してあるのを見ると、純粹の朝鮮語中 여音を以てあらはされる語は、古くは 여にも發音せられるが如き傾向の存したことを知るに足るのである。

여音の轉訛は、字音たる朝鮮語たるに拘らず、同一地方にありては同一變化をなすべきであるが、前掲の結果による時は相一致せざる點が往々にして存して居る。併しながら慶尙北道及び慶尙南道東部を除ける他の地方にありては、大體に於て 여の變化が普遍的に行はれて居るといへる。

四 여

여(藝)の如きは各道何れも原音通りに發音せられるが、本來此の母音を含める「世」(세)・「界」(계)等は、場所によつて 여・이・이等の音に變化する。其の分布状態は次の如くである。(音韻分布圖第五圖參照)。

【忠清北道】

全部에に發音される。(但し 여(藝)及び 옛적(昔)의 에は原音通り)

【忠清南道】

全部에に發音される。

【全羅北道】

全部에に發音される。

【全羅南道】

全部에に發音される。

【慶尙北道】

(이)의 原音を存する地方。尙州。青松。(但し尙州では此の外 여・이ともいひ、青松では幾分 이の形をも存する)

(ロ)に發音する地方。尙州。聞慶。咸昌。榮州。醴泉。知禮。金泉。(但し尙州では泉の形をもとり、醴泉では泉の形をもとり、醴泉の泉ではイともいふ)

(ハ)に發音する地方。大邱。尙州。醴泉。安東。青松。義城。興海。浦項。盈德。慶州。永川。星州。(但し尙州ではイ・イともなり、醴泉ではイ・イともいひ、青松ではイともいふ)

(ニ)に發音する地方。大邱。尙州等の地方で「世上」(세상)を시상의如く發音するけれども、著しい勢力が無い。

【慶尙南道】

(イ)に發音する地方。昌寧。陝川。居昌。

(ロ)に發音する地方。蔚山。東萊。密陽。(但し密陽では繼(계)を기、「世」(세)を上(세상)を시상의如くにもいふ)

(ハ)に發音する地方。密陽。(イにも變化するが、イの形が他(地方に比して可なり顯著である)

南部地方不明。

【江原道東海岸】

(イ)に發音する地方。杆城。襄陽。注文津。江陵。三陟。平海。

(ロ)に發音する地方。蔚珍。

以上によりイ音分布の狀況を案するに、

(一)イの原音を存する地方は頗る稀である(海美。青。松。尙州)。

(二)イの音に發音する地方。忠清南北道・全羅南北道の全部、慶尙南北道の西部、江原道の大部分(蔚珍を除く)等である。

(三)イに發音する地方。慶尙北道の中部以東、慶尙南道の東部、江原道海岸中の一部(蔚珍)である。

(四)イに發音する地方。密陽・大邱・尙州地方に行はれるが、就中密陽地方が最も濃厚である。併し全體に對してさ程重要な位置を占めて居らぬ。

五 五

〔學校〕(학교)・〔教師〕(교사)・〔妙香山〕(묘향산)・〔車票〕(차표)・〔孝子〕(효자)等の語に於ける〔校〕・〔教〕・〔妙〕・〔票〕・〔孝〕等は何れも五の母音を含んだものであるが、これが各地

によつて^イ・^オ等の音に變ずる。今其の分布の状況を説明する。(分布圖第六圖參照)。

【忠清北道】

- (イ) 原音を存する地方。何れの地方にありても、大體に於て原音を存する。
- (ロ) 原音以外に、^オに發音する地方。槐山。(「學校」を「^{ハク}교」「^{ハク}교」「^{ハク}교」を「^{ハク}교」「^{ハク}교」を「^{ハク}교」を「^{ハク}교」といふ)。
- (ハ) 原音以外に、^イに發音する地方。鎮川。(「學校」を「^{ハク}교」「^{ハク}교」「^{ハク}교」を「^{ハク}교」「^{ハク}교」を「^{ハク}교」を「^{ハク}교」といふ)。

【忠清南道】

- (イ) 原音を存する地方。何れの地方にありても大體に於て原音を存する。
- (ロ) 原音の外、^オに發音する地方。保寧。江景。烏致院。(保寧・烏致院に於ては「學校」を「^{ハク}교」^{ハク}교」といふ。其の他、洪城・廣川・鴻山・青陽附近に於ては「學校」を「^{ハク}교」「^{ハク}교」といふ)。
- (ハ) 原音の外、^イに發音する地方。鴻山。(「教師」を「^{ハク}교」「^{ハク}교」を「^{ハク}교」といふ。其の他青陽・江景等に於ても「教師」を「^{ハク}교」といふ)。

【全羅北道】

- (イ) 原音を存する地方。全州。任實。茂朱。錦山。(但し任實及び茂朱では「學校」を「^{ハク}교」と比較的多い。本)。
- (ロ) ^オの音に發音する地方。
 - (A) 原音の外、^オに發音する地方。任實。茂朱。(「學校」を「^{ハク}교」)。
 - (B) ^イの外、^オに發音する地方。井邑。群山。(「學校」を「^{ハク}교」併しながら^オに轉ずる現象は^イに比較してさ程重きをなして居らぬ)。
- (ハ) ^イの音に發音する地方。南原。井邑。金堤。群山。(「學校」を「^{ハク}교」「^{ハク}교」を「^{ハク}교」といふ。但し井邑・群山では「學校」を「^{ハク}교」の如くにもいふ)。

【全羅南道】

- (イ) 原音を存する地方。靈光。咸平。(但し兩地とも「孝子」を「^{ハク}교」の如くいふ)。
- (ロ) ^オに發音する地方。海南。木浦。莞島。(此等の地方では「學校」を「^{ハク}교」といふ。但し大部分の語は此の地方に於ても^イである)。
- (ハ) ^イに發音する地方。靈光・咸平を除ける全部。(但し海南・木浦・莞島地方では「學校」を「^{ハク}교」といふことがある)。

【慶尙北道】

(イ) 原音を存する地方。榮州。安東。青松。義城。(但し榮州・青松地方に於ては「學校」を「訓正」「教師」を「立人」「車票」を「炸する」の如く發音するところがある)

(ロ) ㄱに發音する地方。前項(イ)以外の全部の地。

(ハ) ㄱ외に發音する地方。無し。

【慶尙南道】

(イ) 原音を存する地方。無し。

(ロ) ㄱに發音する地方。全部。

(ハ) ㄱ외に發音する地方。無し。

【江原道東海岸】

(イ) 原音を存する地方。無し。

(ロ) ㄱに發音する地方。蔚珍。平海。

(ハ) ㄱ외に發音する地方。通川。高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。

以上によりㄱ音分布の状況を案ずるに、

(一) ㄱの原音を存する地方は、忠清南北兩道及び全羅北道の大部分を主要部分とし、其の勢力が慶尙北道の一部に及び、恰も半島を横斷せんとする形勢を示して居る。

(二) ㄱの音に發音する地方。慶尙南北兩道の全部、江原道の南部(蔚珍・平海)を主要なる地とし、隣接各道に多少づつの影響を及ぼして居る。

(三) ㄱ외に發音する地方。全羅南道及び江原道海岸を主要なる地とし、其の間はㄱ及びㄱ系のものによつて中斷せられて居る。而して全羅南道ものは全羅北道の一部(金堤・井邑・南原)に影響を及ぼし、江原道ものは咸鏡南道地方のものと密接な關係がある。

六 ㄱ

「規則」の「規(ㄱ)」「休暇」の「休(ㄱ)」の如きは何れもㄱの音を含んだものであるが、地方によつてㄱ・ㄱ外等の音に變ずる。其の分布状態は次の如くである。(音韻分布圖

第七圖參照。

【忠清北道】

- (イ) 原音を存する地方。忠州。
- (ロ) 原音の外、別に發音する地方。清州。鎮川。永同。
- (ハ) 原音の外、早にも發音する地方。槐山。

【忠清南道】

- (イ) 原音を存する地方。江景を除ける 殆んど全部。(但し保寧・青陽地方では「規則」をナキといふ)
- (ロ) 原音の外、早に發音する地方。江景。

【全羅北道】

- (イ) 原音の外、別に發音する地方。全州。茂朱。錦山。
- (ロ) 別に發音する地方。任實。南原。井邑。金堤。群山。

【全羅南道】

- (イ) 原音を存する地方。長興。

- (ロ) 原音の外、別に發音する地方。咸平。
- (ハ) 別に發音する地方。前記(イ)(ロ)を除ける全部。

【慶尙北道】

- (イ) 原音を存する地方。開慶。榮州。安東。青松。義城。
- (ロ) 早に發音する地方。大邱。尙州。咸昌。醴泉。興海。浦項。盈德。慶州。永川。星州。知禮。金泉。(但し醴泉地方では「規則」をナキといひ、浦項地方では「休暇」を原音のままにもいふ)

【慶尙南道】

- 早に發音する地方。全部。

【江原道東海岸】

- (イ) 早に發音する地方。平海。
- (ロ) 別に發音する地方。通川。長箭。高城。杆城。襄陽。注文津。三陟。江陵。

以上により音分布の状況を案するに、
 (一) 音の原音を存する地方。忠清南北兩道を主要地とし、南は全羅北道の北部、東は

慶尙北道の中部に入り、恰かも半島を横断せんとする形勢を示して居る。

(二)に發音する地方。慶尙南道の全部、慶尙北道の中央部を除ける一圓、江原道海岸の最南端を含む。

(三)別に發音する地方。全羅南北兩道の全部、江原道海岸(平海を除く)を主要なる地とし、其の中間はイ及びウ系のもので中斷せられて居る。而して全羅南北道のものは忠清北道に一部の影響を及ぼし、江原道のもは咸鏡南道安邊附近と多少の連絡を有して居る。

七 外

「怪異」(괴이)・「衰殘」(쇠잔)・「回答」(회답)・「會計」(회계)等の語に於ける「怪」・「衰」・「回」・「會」等は何れもイの母音を含んだものであるが、これが地方によつて 이・왜・이・위・웨・요・에・오等各種の音に變ずる。今其の分布の狀況を説明する。
(音韻分布圖第八圖參照)

【忠清北道】

大體に於て各地とも原音を存す。

【忠清南道】

(イ)原音を存する地方。禮山。沔川。瑞山。海美。洪城。廣川。保寧。青陽。江景。鳥致院。

(ロ)原音の外、別に發音する地方。鴻山。扶餘。(此の地方では「怪」(괴)を判と發音する)。

(ハ)原音の外、別に發音する地方。公州。(此の地方では「畏」(외)を判の如く發音する)。

(ニ)原音の外、別に別に發音する地方。藍浦。(此の地方では「怪」(괴)を判、(外)「畏」(외)を判の如く發音する)。

【全羅北道】

(イ)原音を存する地方。全州。任實。南原。群山。

(ロ)原音の外、別に發音する地方。井邑。金堤。茂朱。錦山。(語によつて出入があるけれども、「怪異」(괴이)を「고이」、「魁首」(괴수)を「고수」の如く發音する)。

【全羅南道】

(イ) 原音を存する地方。光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。突山。麗水。高興。筏橋。寶城。

(ロ) 原音の外、ヨに發音する地方。長興。海南。咸平。羅州。長城。靈光。

(ハ) 原音の外、ウ・エ・オに發音する地方。木浦。〔外〕畏〔外〕を判、「怪」〔外〕を判、「回」。

(ニ) 原音の外、ウ・ヨ・エに發音する地方。莞島。〔外〕外〔外〕を判、「會」〔外〕を判。

【慶尙北道】

(イ) 原音を存する地方。慶州。永川。星州。知禮。〔但し知禮地方では「畏」。

(ロ) 判に發音する地方。聞慶。咸昌。〔尙ほ聞慶地方では「怪」〔外〕を判といひ、咸昌地方では「回」〔外〕を判、「魁」〔外〕を判といふことがある。

(ハ) 判に發音する地方。榮州。安東。青松。義城。興海。浦項。盈德。金泉。〔尙ほ榮州

地方では「魁」〔外〕を判、「浦項地方」では「回」〔外〕を判といふことがある。

(ニ) 外・イ・ウ何れにも發音する地方。醴泉。〔怪〕〔外〕「魁」〔外〕を判、「回」〔外〕を判、「會」〔外〕を判。

他同地方では「怪」〔外〕「魁」〔外〕を判、「外」〔外〕を判、「回」〔外〕を判の如くにもいふ。

(ホ) 判に發音する地方。大邱。〔畏〕〔外〕を判、「怪」〔外〕を判、「回」〔外〕を判といふ類である。而して同地方では「怪」〔外〕「魁」〔外〕を判といふこともある。尙ほ咸

昌・醴泉・浦項附近でも判の轉訛をなすものがある。

(ヘ) 判に發音する地方。尙州。〔畏〕〔外〕を判、「怪」〔外〕を判、「回」〔外〕を判といふ類である。尙ほ同發音する等および判に轉訛することもある。

要するに本道に於ける判の轉訛は頗る複雑なるものあることを知るに足るのである。

【慶尙南道】

(イ) 原音の外、判に發音する地方。東萊。〔外〕〔外〕を判、「衰」〔外〕を判。

(ロ) 原音の外、判・エに發音する地方。陝川。〔怪〕〔外〕を判、「會」〔外〕を判、「衰」〔外〕を判。

〔魁〕〔外〕を判の如くにもいふ。

(ハ) 判に發音する地方。密陽。居昌。

(ニ) 判に發音する地方。昌寧。〔畏〕〔外〕を判、「回」〔外〕を判といふ類。

(ホ) 判に發音する地方。東萊。〔畏〕〔外〕を判、「回」〔外〕を判といふ類。

(ヘ) 判に發音する地方。巨濟。統營。南海。河東。馬山。〔畏〕〔外〕を判、「回」〔外〕を判といふ類。

【江原道東海岸】

(イ) 原音を存する地方。通川。高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。(蔚珍地方では原音の外、「怪」「訛」を如くにもいふ)

(ロ) 判に發音する地方。平海。

以上により、音分布の状況を案ずるに、極めて複雑なるものあつて系統を明かにすること困難である。これ此の音の發音が頗る困難なるものあるに基因するものである。今其の分布の大畧を説明する。

- (一) 原音を存する地方。忠清南北道・江原道東海岸を主要なる地とし、他道にも亘つて居るが、慶尙南道は著しく原音を失つて居る。
- (二) 判に發音する地方。江原道海岸の平海が最も濃厚であつて、他道にも存して居るが、之を系統立てることは困難である。
- (三) 判に發音する地方。主として全羅南北道の西部、及び全羅北道の北部。
- (四) 判に發音する地方。慶尙北道の大部分、及び之に隣接せる慶尙南道の北部地方。

- (五) 判に發音する地方。慶尙北道の西北部及び江原道海岸の南部地方。
- (六) 判に發音する地方。主として、慶尙南道の南海岸。
- (七) 判に發音する地方。大邱地方を中心とし、慶尙北道の一部及び慶尙南道の東部地方。
- (八) 判に發音する地方。昌寧及び醴泉地方。
- (九) 判に發音する地方。慶尙北道の西北部地方。

八 判

「違反」(위반)・「歸家」(귀가)・「指揮」(지휘)・「受取」(수취)等の語に於ける「違」・「歸」・「揮」・「取」等は何れも判の母音を含んだものであるが、これが地方によつて判の音に變ずる。今其の分布の状況を左に示す。(音韻分布圖第九圖參照)

【忠清北道】

原音を存する地方。全部。

【忠清南道】

原音を存する地方。全部。

【全羅北道】

原音を存する地方。全部。

【全羅南道】

原音を存する地方。全部。(但し木浦・智島地方では「連」(利)をいともいふ)

【慶尙北道】

(イ) 原音を存する地方。榮州。安東。青松。義城。興海。浦項。盈德。永川。星州。知禮。

(ロ) イに發音する地方。大邱。尙州。聞慶。咸昌。金泉。

(ハ) ウイ及びビイに發音する地方。醴泉。慶州。

【慶尙南道】

(イ) 原音を存する地方。蔚山。昌寧。

(ロ) イに發音する地方。東萊。陝川。居昌。

(ハ) ウイ及びビイに發音する地方。密陽。

【江原道東海岸】

原音を存する地方。全部。

以上によりウイ音分布の狀況を案するに、

(一) 原形を存する地方。忠清南北道・全羅南北道及び江原道海岸の全部、慶尙北道の中部以東、慶尙南道の東北部。

(二) イに發音する地方。慶尙南道の大部分。

九 의

「記録」(기록)・「希罕」(희한)等に於ける「記」・「希」は何れもウイの音を含んだ語であるが、地方によつてウイの如くにも發音される。今次に其の分布状態を示す。(音韻分布圖第十圖参照)。

【忠清北道】

(イ) 原音を存する地方。槐山。

(ロ) イに發音する地方。忠州。鎮川。永同。

(ハ) 原音及びイに發音する地方。清州。

【忠清南道】

(イ) 原音を存する地方。禮山。沔川。海美。洪城。廣川。保寧。藍浦。扶餘。公

州。烏致院。(但し廣川・保寧・藍浦・扶餘・公州。烏致院では「記」(ㄱ)を「ㄱ」ともいふ。)

(ロ) イに發音する地方。青陽。江景。

(ハ) 原音及びイに發音する地方。鴻山。

【全羅北道】

イに發音する地方。全部。

【全羅南道】

イに發音する地方。全部。

【慶尙北道】

イに發音する地方。全部。

【慶尙南道】

イに發音する地方。全部。

【江原道東海岸】

イに發音する地方。全部。

以上によりの音分布の状況を案するに、忠清南北道の一部に於て原音を存するけれども、其の他の地方に於ては、すべてイ音に轉訛することを知るのである。

一〇 ㄱ

「完全」(완전)・「王」(왕)・「日」(일)・「官吏」(관리)・「坐」(좌)・「華」(화)・「黃海」(황해)等に於ける「完」・「王」・「日」・「官」・「坐」・「華」・「黃」は何れもㄱを含んで居る語であるが、地方によつてㄱに發音せられることがある。今左に其の分布の状態を示す。(音

韻分布圖第十一圖參照。

【忠清北道】

原音を存する地方。全部。(但し永同附近では「瓜」を「ガ」。「黄」(註)を「ワ」の如くにもいふ。)

【忠清南道】

原音を存する地方。全部。

【全羅北道】

(イ)原音を存する地方。全州。任實。南原。茂朱。錦山。群山。

(ロ)原音及びハに發音する地方。井邑。金堤。(此の地方では「官」を「官」を「サ」「坐」を「ソ」を「サ」「黄」を「ワ」の如くにもいふ。)

【全羅南道】

(イ)原音を存する地方。光州。玉果。順天。光陽。突山。麗水。高興。咸平。靈

光。(但し玉果・光陽地方では「官」。「母」を「マ」の如くにもいふ。)

(ロ)ハに發音する地方。筏橋。

(ハ)原音及びハに發音する地方。谷城。求禮。寶城。長興。海南。木浦。羅州。

長城。莞島。(同一字を斗・ハ兩音に發音する地方もあるけれど。も、字によつて斗或はハに發音されるものをも含む。)

【慶尙北道】

(イ)原音を存する地方。榮州。安東。青松。義城。浦項。盈德。慶州。永川。星

州。(但し盈德地方では「坐」(斗)を「サ」。「還」(註)を「サ」の如くにもいふ。)

(ロ)ハに發音する地方。尙州。(但し「完」「王」を「原音通りにもいふ。)

(ハ)原音及びハに發音する地方。大邱。聞慶。咸昌。醴泉。興海。知禮。金泉。

【慶尙南道】

(イ)原音を存する地方。南海。昌寧。居昌。

(ロ)ハに發音する地方。巨濟。統營。東萊。

(ハ)原音及びハに發音する地方。河東。蔚山。密陽。陝川。

【江原道東海岸】

(イ)原音を存する地方。通川。高城。杆城。襄陽。

(ロ)原音及びハに發音する地方。注文津。江陵。蔚珍。平海。

以上により外音分布の状況を案するに、

(一) 原音を存する地方。忠清南北道を主要地とし、全羅北道の中部、慶尙北道の中部を次とし、其の他の地方に不規則に影響を及ぼして居る。

(二) 外に發音する地方。各地に散布して居るが、大體に於て各道の海岸地方(忠清南道を除く)に多く存し、慶尙北道の西部に姿を現はして居る。

外なる音は^ㅁであつて國語の「わ」音に當る。故に外音の發音の困難な地方にありては國語の「わ」を發音することも困難を感じる。故にそれ等の地方にありては「私」を「あたくし」、「忘れる」を「あすれる」など發音することが屢ある。

一一 一

「病院」(병원)・「正月」(정월)・「一卷」(일권)・「大闕」(대궐)等に於ける「院」・「月」・「卷」・「闕」は위의音を含んで居る語であるが、地方によつて어に發音される。今其の分布の状態を次に示す。(音韻分布圖第十二圖參照)

【忠清北道】

原音を存する地方。全部。

【忠清南道】

原音を存する地方。全部。

【全羅北道】

(イ) 原音を存する地方。全州。任實。南原。茂朱。錦山。群山。

(ロ) 原音及び어に發音する地方。井邑。金堤。

【全羅南道】

(イ) 原音を存する地方。光州。玉果。求禮。順天。光陽。突山。麗水。高興。寶城。長興。海南。咸平。長城。莞島。靈光。(長城では「病院」(병원)を「ㅁ」(南原)「甘泉」(감천)を「ㅁ」の如くにもいふ)

(ロ) 原音及び어に發音する地方。谷城。筏橋。木浦。羅州。

【慶尙北道】

(イ) 原音を存する地方。大邱。開慶。榮州。安東。青松。義城。興海。浦項。盈

德。慶州。永川。星州。(但し大邱では「水原」(수원)を「介」(가)。「病院」(병원)を「明」(명)の如くにもいふ。)

(ロ)に發音する地方。尙州。咸昌。知禮。金泉。

(ハ)原音及びイに發音する地方。醴泉。

【慶尙南道】

(イ)原音を存する地方。巨濟。統營。南海。河東。馬山。蔚山。密陽。昌寧。陝川。居昌。

(ロ)に發音する地方。東萊。

【江原道東海岸】

原音を存する地方。全部。

以上により發音分布の狀況を案するに、

(一)原音を存する地方。忠清南北道を主要なる地とし、他の各道に廣く分布せられて居る。

(二)イに發音する地方。慶尙北道の西部を最とし、全羅南北道の一部に存して居る。

一一一 例

「倭」(와)の音は地方によつてイの如くにも發音せられる。今其の分布の狀態を次に示す。(音韻分布圖第十三圖參照)。

【忠清北道】

原音を存する地方。全部。

【忠清南道】

原音を存する地方。全部。

【全羅北道】

(イ)原音を存する地方。全州。任實。南原。茂朱。錦山。群山。

(ロ)に發音する地方。井邑。金堤。

【全羅南道】

(イ)原音を存する地方。光陽。麗水。高興。咸平。

(ロ)に發音する地方。玉果。谷城。求禮。突山。寶城。木浦。長城。莞島。靈

光。

(ハ)外に發音する地方。光州。

(ニ)原音及びビに發音する地方。順天。筏橋。長興。海南。

【慶尙北道】

(イ)原音を存する地方。大邱。聞慶。榮州。安東。青松。義城。興海。浦項。盈德。慶州。永川。星州。

(ロ)に發音する地方。尙州。咸昌。知禮。金泉。

(ハ)原音及びビに發音する地方。醴泉。

【慶尙南道】

(イ)原音を存する地方。蔚山。密陽。昌寧。居昌。

(ロ)に發音する地方。東萊。陝川。

本道南海岸不明。

【江原道東海岸】

原音を存する地方。全部。

以上によりハ音分布の狀況を案ずるに、

(一)原音を存する地方。忠清南北道及び全羅南道の全部、其の他の道の大部分。

(二)に發音する地方。慶尙北道の西部及び之に隣接せる慶尙南道の一部、全羅北道の西部。

一三 判

判(何故)といふ語は、地方によつてハ・州・外の如く發音される。今其の分布狀態を次に示す。(音韻分布圖第十四圖参照)。

【忠清北道】

原音を存する地方。全部。

【忠清南道】

原音を存する地方。全部。

【全羅北道】

原音を存する地方。全部。

【全羅南道】

原音を存する地方。全部。

【慶尙北道】

(イ) 原音を存する地方。大邱。尙州。聞慶。慶州。永川。星州。知禮。金泉。

(ロ) 外に發音する地方。咸昌。醴泉。青松。義城。

(ハ) 外に發音する地方。榮州。安東。盈徳。

(ニ) 外に發音する地方。興海。浦項。

【慶尙南道】

原音を存する地方。全部。

【江原道東海岸】

外に發音する地方。全部。

以上各音の分布状態を案するに、忠清南北・全羅南北・慶尙南道の各地方に於ては全部原音のまゝに發音せられるけれども、慶尙北道にありては外・外・外等の音が入り亂れて居り、江原道は全部外である。

一四 기・겨

本來기又は저等である語が지又は저等に變ずることがある。例へば길(路)을길, 기등(柱)을지등, 기름(油)을지름, 키(箕)을치, 첫(傍)을첫, 견딜(耐)을견딜, 계집(女)을계집又は지집なごいふが如きこれである。併し此等の現象は本地方のみに限らず、廣く鮮内各道に亘つて存して居るのであるから、茲に分布の状態を示さぬことにした。

一五 히・혀

本來히又は혀である語が, 시又は시等に變ずることがある。例へば힘(力)을힘, 혀

(舌)を夕・列・夕・夕、春년(凶年)을 春년といふが如きこれである。併し此等の現象も本地方獨特のものと思ふことが出来ぬから、茲に分布の状況を表示することを中止した。

一六 △

京城地方に於て普通に○を以て書き表はされる語が人々を以て現はれる事がある。例へば 가을(秋)을 가을・가을, 겨울(冬)을 겨울・겨울, 가을(邊)을 가을, 가을(料)을 가을, 가을(馬槽)을 가을・가을, 가을(刀剪)을 가을などいふが如きはこれである。而して之が分布は殆んど各道に亘つて居て、單に濃度の差あるに過ぎぬのであるから、分布状態を系統的に表示するまでの必要を認めぬ。

然らば○人對立の原因は那邊に存するかといふに、○又は人々を以て書き表はされる語の多くは古く△なる諺文を以て表記せられた語に當り、其の△なる諺文の音價が獨逸語のj類似の音であるために、○及び人の兩音に分裂したものと思はれるので

ある。此等名詞以外にありても、古く「고고」고고あるものが後世を合고及び고고となり、「고고아아」고고あるものが後世「고고아아」고고(今日慶尙北道方言)及び고아아の二途に分れる現象等に徴しても、其の一斑を知ることが出来よう。此の結論に對しては尙ほ幾多の證據が存して居るが、餘論に亘る虞があるから茲ではすべて省畧する。

一七 ㅁ

京城地方で活用語の活用形中○を以て書き表はされるものが、此等の地方に於てㅁを以て現はれることがある。例へば 더위ㅁ(暑く)、더운ㅁ(熱い)을 더위ㅁ・더운ㅁ, 고아ㅁ(美く)고운ㅁ(美し)을 고바ㅁ・고운ㅁ, 매워ㅁ(辛く)・매운ㅁ(辛い)을 매바ㅁ・매운ㅁ, 더러워ㅁ(穢く)・더러운ㅁ(穢い)을 더러바ㅁ, 더러운ㅁといふが如きは其の例である。此等も前條同様程度上の差こそあれ各道に亘つて廣く行はれて居るのであるから、之が分布を系統的に指示する必要を認めぬ。

ㅁ及び○が何故に對立の現象を生じたかといふに、そは此の種の語に於けるㅁはも

と異なる諺文を以て書き表されたもので、そのㅁがWの音價を有して居た結果、容易にㄱ・우等の音に轉じたものである。ㅁがWの音價を有したものであることに關しては幾多の證を有して居るが、これまた茲では一切省略することとする。

一八 ㅁ音の逆行同化

或る語又は句の下にㅁなる母音が來る時は、其の語又は句中にある母音が下なる母音の影響を受けて一種の同化作用即ち逆行同化(Regressive assimilation)の現象を生ずることがある。例へば바람이(風)가바람이となり、사람이(人)가사람이となり、공일(空日)가공일となるが如きはそれである。

然らば此の音現象の分布状態は如何といふに、忠清北道の大部分(但し清州・永同地方はㅁの影響あり)及び慶尙北道の尙州・聞慶・咸昌・榮州・醴泉・安東・青松地方にありては殆んど此の現象なく、江原道東海岸は餘り顯著でない。而してㅁの影響を蒙る地方にありても、其の程度に關して相違はあるが、前記以外の地方にありては一般に此の現象が行はれ

て居るのである。(音韻分布圖第十五圖參照)。

一九 文アクセント

慶尙南北道地方の朝鮮語に文アクセント(Sentence-accent) 即ち語調の高低の顯著なることは何人も容易に認め得る所である。此のアクセントの研究は方言調査上最も困難を感じる所で、余も未だ十分の目的を達することを得ぬのであるが、要するに同地方に於ける此の種のアクセントは毎音節の初の部分に力を置き、即ち頭上りの調子を以て談話を繼續し行くのである。而して其の分布の状態を見るに慶尙南北兩道の全部及び江原道注文津以南を以て最も顯著なる地方とする。而して其の影響の及ぶ所は全羅南道一圓であるが、該地方に於けるアクセントは慶尙南北道に於けるもの程顯著ならず、唯南方海岸に面し慶南地方と比較的交通の頻繁なる高興・筏橋・寶城・長城地方が慶尙道と同程度に於て著しきを發見するのである。忠清南道・全羅北道の全部、江原道襄陽以北にありては此のアクセントが認められず、京城

地方と大差なきは注意するに足る現象である。(音韻分布圖第十六圖參照)。

第二編 語法

本編に於ては語法の根柢をなすべき諸現象に就き概括的に説明を加へようと思ふ。但し全鮮共通の現象は出來得るだけ之を省略することにした。而して活用語の代表としてハムナなる動詞を用ひることとする。

一 外

疑問の助詞ガは對者の如何により、自ら二種の様式に分れる。一は目上に對する場合で、ガの外にハ・外・ハの如き形をとり、一は同輩又は目下に對する場合で、ガの外にガ・コ・公等の形をとるのである。

(イ) 外・ハ・外・ハ・例・例。

합나外・헛습나ハ・하니外・사람이ハ等の如く目上に對する場合はハの外ハ・外・ハ・例・例の如き形を以てあらはれる。其の分布の状態は次の如くである。(語法

分布圖第一圖參照)

【忠清北道】

外に發音する地方。全部。

【忠清南道】

- (イ)外に發音する地方。禮山。沔川。海美。洪城。鴻山。扶餘。烏致院。
- (ロ)外に發音する地方。泰安。廣川。保寧。藍浦。江景。公州。

【全羅北道】

- (イ)外に發音する地方。群山。茂朱。錦山。(但し群山・錦山地方では함나아と、いへど茂朱では함나아の如くいふ)
- (ロ)外に發音する地方。全州。任實。南原。井邑。金堤。(但し全州では함나아といへど、南原・井邑・金堤では함나아の如くいふ)

【全羅南道】

- (イ)外に發音する地方。光州。玉果。谷城。求禮。順天。咸平。羅州。長城。靈光。(但し求禮・順天・光陽・羅州・長城地方では함나아といひ、谷城地方では함나아といひ、岾の上の나を나又は岾に訛る)
- (ロ)外に發音する地方。高興。筏橋。寶城。長興。海南。木浦。(此等の地方では함나아といひ、岾の上の나を나に訛る)

는に轉する)

(ハ)外に發音する地方。突山。麗水。(此等の地方にありては함나아といひ、岾の上の나を나に訛る)

(ニ)外に發音する地方。光陽。(此の地方にありても함나아の如く、岾の上の나を나に訛る)

(ホ)外に發音する地方。玉果。(此の地方では岾をも使用する)

【慶尙北道】

- (イ)外に發音する地方。大邱。尙州。開慶。咸昌。永川。知禮。金泉。(開慶・咸昌地方では함나아といひ、岾の上の나を나と訛る)
- (ロ)外に發音する地方。榮州。醴泉。安東。

(ハ)外に發音する地方。大邱。義城。星州。(大邱では아ともいふ)

以上の地方にありては함나아外(함나아・하갸승나아等も之に準ず)하나아(함나아・함나아等も之に準ず)等の如く外・岾・岾等を使用すること常であるが、青松・興海・浦項・盈徳・慶州地方にありては外系統の言ひ方なく、하는기오(함나아等も之に準ず)及び其の轉訛たる하는기리(함나아等も之に準ず)なる形を使用する(는기오の條參照)。

【慶尙南道】

(イ)外に發音する地方。蔚山。東萊。密陽。昌寧。居昌。金海。馬山。南海。統營。巨濟。

(ロ)外に發音する地方。陝川。河東。

【江原道東海岸】

(イ)外に發音する地方。通川。高城。杆城。襄陽。三陟。

(ロ)外に發音する地方。注文津。江陵。(江陵地方では하령의如くハの外の上のハをリといふ)

(ハ)外・外・外・何れにも發音する地方。蔚珍。

(ニ)外・何れにも發音する地方。平海。

以上により疑問の助詞外の分布を案するに、

(一)外に發音する地方。大體に於て各道に行はれるけれども、全羅南道には存せぬ。

(二)外に發音する地方。全羅南道の南海岸を主要なる地とし、忠清南道及び江原道の一部に行はれる。

(三)外に發音する地方。分布は極めて狭く、蔚珍・平海・義城・大邱・星州・陝川・河東及び玉果を貫いた一線上にのみ行はれる。

(四)外に發音する地方。全羅北道の南半及び全羅南道の北半を主要なる地とし、慶尙北道の北部及び之に接せる江原道平海地方にも行はれる。

(五)外に發音する地方。全羅南道麗水・突山地方。

(六)外に發音する地方。全羅南道光陽地方。

(ロ) 外
하느가・외느고、하느가等の如く同輩又は目下に對する場合の語には、ハの外ハ
고・느강・느공の如き形を以てあらはれる。其の分布の状態は次の如くである。(語
法分布圖第二圖參照)。

【忠清北道】

ハ外に發音する地方。全部。

【忠清南道】

ㄴ가に發音する地方。全部。

【全羅北道】

ㄴ가に發音する地方。全部。

【全羅南道】

(イ) ㄴ가に發音する地方。光州。玉果。求禮。順天。光陽。突山。麗水。高興。

筏橋。寶城。長興。海南。木浦。咸平。羅州。長城。靈光(本道に於ては斗가と同意義に於て斗가なる

語形をも存する)

(ロ) ㄴ가及びㄴ가에發音する地方。谷城。

【慶尙北道】

(イ) ㄴ가に發音する地方。大邱。尙州。開慶。咸昌。榮州。醴泉。安東。金泉。

知禮。(此の地方には斗가・斗가斗가なる特別の語法をも存する)

(ロ) ㄴ가及びㄴ가에發音する地方。青松。永川。星州。

(ハ) ㄴ가及びㄴ고に發音する地方。盈德。浦項。

(ニ) ㄴ가・ㄴ고・ㄴ강・ㄴ공何れにも發音する地方。義城。興海。慶州。

【慶尙南道】

ㄴ가に發音する地方。全部。

【江原道東海岸】

(イ) ㄴ가に發音する地方。通川。高城。杆城。襄陽。注文津。(此地方には斗가・斗가斗가なる特別の語法をも有する)

(ロ) ㄴ가及びㄴ고に發音する地方。蔚珍。平海。

(ハ) ㄴ가・ㄴ고及びㄴ가에發音する地方。江陵。

以上によりㄴ가分布の状態を案ずるに、

(イ) ㄴ가に發音する地方。各道全部。

(ロ) ㄴ가에發音する地方。慶尙北道の中部以東。

(ハ) ㄴ고に發音する地方。慶尙北道の義城及び慶尙北道及び江原道の海岸地方一帯。

(ニ) ㄴ공に發音する地方。慶尙北道中の義城・慶州・興海地方。

(ホ) ㄴ가에發音する地方。江原道江陵地方。

(へ)に發音する地方。全羅南道谷城地方。
要するに此のミガの分布は慶尙北道及び江原道の海岸地方に於て最も複雑なるを見
るのである。

二 ㄷ・ㄸ

ㄷは합나ㄷ・하첫ㄷ・한ㄷ・할ㄷ・사람이ㄷ等に於けるが如く活用語の各種の時
及び尊敬・敬讓其の他の態をあらはす語の下に廣く用ひられる。而して同輩及び目
下に對する場合にはすべてㄷと呼ばれるが、目上の人に對する場合には此のㄷは時
としてㄸ(ㄷの音に近い)の音に變ずることがある。今かゝる場合に於けるㄷの分布
を次に示す。(語法分布圖第三圖參照)

【忠清北道】

ㄷに發音する地方。全部。

【忠清南道】

ㄷに發音する地方。全部。

【全羅北道】

ㄷに發音する地方。全部。

【全羅南道】

ㄷに發音する地方。全部。

【慶尙北道】

(イ)ㄷに發音する地方。尙州。開慶。咸昌。知禮。金泉。

(ロ)ㄷに發音する地方。大邱。榮州。醴泉。安東。青松。義城。興海。浦項。盈

德。慶州。永川。星州。

【慶尙南道】

(イ)ㄷに發音する地方。東萊。居昌。金海。馬山。河東。南海。統營。巨濟。

(ロ)ㄷに發音する地方。蔚山。密陽。昌寧。陝川。

【江原道東海岸】

- (イ) ㄷに發音する地方。通川。高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。
- (ロ) ㄹに發音する地方。蔚珍。平海。

右によりㄷ音分布の状態を案ずるに、

- (一) ㄷに發音する地方。忠清南北道・全羅南北道の全部、慶尙北道の西部、慶尙南道の西部及び南部一帯、江原道三陟以北の地に行はれる。
- (二) ㄷに發音する地方。慶尙北道の大部分(西部の一部を除く)を主要なる地とし、之に隣接せる慶尙南道及び江原道の一部に於て行はれる。

三 ㄷ・ㄸ・ㄹ

未來をあらはす하ㅌ소・하ㅌㅌ等のㄷは地方によりㄷ・ㄸ・ㄹ等として現はれる。今其の分布の状態を次に示す。(語法分布圖第四圖參照)

【忠清北道】

- (イ) ㄷに發音する地方。忠州。槐山。

- (ロ) ㄷに發音する地方。清州。鎮川。

- (ハ) ㄷ及びㄹに發音する地方。永同。

【忠清南道】

- (イ) ㄷに發音する地方。禮山。瑞山。海美。洪城。廣川。保寧。藍浦。鴻山。扶餘。江景。公州。

- (ロ) ㄷ及びㄹに發音する地方。沔川。烏致院。

【全羅北道】

- (イ) ㄷに發音する地方。群山。全州。任實。南原。井邑。金堤。錦山。
- (ロ) ㄷに發音する地方。茂朱。

【全羅南道】

- (イ) ㄷに發音する地方。長興を除ける全地方。
- (ロ) ㄷ・ㄸ・ㄹに發音する地方。長興。

【慶尙北道】

又ニ發音する地方。大邱。尙州。聞慶。咸昌。榮州。醴泉。永川。星州。知禮。金泉。

青松・安東・義城・興海・浦項・盈徳・慶州地方では本來此のㄷ系の語を使用することなく、할나ㄴ더・할나ㄴ기오(ㄴ다及びㄴ기오の條参照)等の語を使用する。

【慶尙南道】

(イ) 又ニ發音する地方。蔚山。密陽。陝川。居昌。金海。巨濟。

(ロ) 又ニ發音する地方。馬山。河東。南海。統營。

(ハ) 又ニ發音する地方。東萊。

(ニ) 又ニ發音する地方。昌寧。

【江原道東海岸】

又ニ發音する地方。全部(但し平海地方ではㄷといふことがある)。

以上によりㄷ音の分布状態を案するに、

(一) 又ニ發音する地方。忠清北道の中部以東、慶尙南道の東部及び北部に行はれ、比較

的分布の範圍が狭い。

(二) 又ニ發音する地方。忠清南北・全羅南北諸道の殆んど全部、慶尙南道の南部に行はれ、分布の範圍は最も廣い。

(三) 又ニ發音する地方。慶尙北道及び江原道海岸の大部分を占め、其の勢力は東萊及び茂朱地方に及んで居る。前項又ニに次ぎ使用の範圍が廣い。但し慶尙北道中又系の語を缺く地方には他の語を使用すること前に述べた通りである。

(四) 又ニ發音する地方。茂朱及び長興に發見せられるのみであるが、之を一箇の系統と見ることは困難である。

(五) 又ニ發音する地方。昌寧地方のみである。

四 ㅑ・ㅓ

動詞の中、同輩に對して用ひる하오(現在)等の오は、忠清南北道及び全羅北道地方に於てはㅑとなることがある。

【忠清南道】 扶餘。公州。(하우)

【全羅北道】 全州。金堤。(하우)

動詞の中、目上に對して用ひる 해오・붓의 요等に於けるよは、忠清南北・全羅北道地方では유となることがある。

【忠清北道】 清州。(해우(現在)、함되(未來) 來) 붓의 유(名詞の下)

【忠清南道】 公州。(해유)

要するに右の現象は公州・扶餘地方を中心とし、北は清州、南は全州・金堤地方に及んで居ることを知るに足るのである。

五 今・시유

動詞の中、同輩に對して用ひる 했소(過去)・하겟소(未來)等に於ける소는、忠清南北道及び全羅北道地方に於ては今となることがある。

【忠清北道】 清州。(해우(過去)、하겟소(未來))

【忠清南道】 鴻山。扶餘。江景。公州。(해우(過去))

【全羅北道】 金堤。(하겟소(未來))

動詞の中、右の今を目上に對して用ひる場合には、其の今は시유의如く發音される。

【忠清南道】 公州。江景。扶餘。(해시유(過去))

要するに右の現象は前條우・유의分布範圍と同じく、忠清南道を中心とし、北は清州南は金堤附近に及んで居ることを知るに足るのである。

六 日녀外・日녀

합녀外・했습녀外・하겟습녀外又は합녀다・했습녀다・하겟습녀다の如くいふもので、何れの道でも用ひられぬ所はないが、慶尙北道地方にありては本來の語として寧ろ하느기오・하녀서・하녀다等の如く、느기오・녀外・녀더(其の條(參照))等を用ひることが多い。(疑問の助詞녀が地方によつて如何に發音せられるか、未來の였が如何に發音せられるか、다が如何に發音せられるかに就いては各條參照)

七 니셔

目上に對する疑問の語で、하니셔(在現)・히니셔(去過)・하갓니셔・호니셔・할나니셔(以上未來)の如く使用するもので、慶尙北道及び江原道地方に限つて用ひられる。其の分布状態は次の如くである。

【慶尙北道】

榮州。(하니셔・헛니셔・할니셔・하)

醴泉。(하니셔・헛니셔・할니셔・하잇)

安東。(하니셔・헛니셔・할나니셔等の形を用ひる。而して本地)。

義城。(하니셔・헛니셔・할나니셔等の形を用ひる。而して本地)。

【江原道東海岸】

蔚珍。(할나니셔・하잇니셔)

平海。(하니셔・헛니셔・할나니셔・할나니셔・할니셔を用ひる)

三陟。(할나니셔・할니셔を用ひる)

右により니셔の分布を案ずるに、慶尙北道の東部(盈徳・興海・浦項等はこれに入らず)及び之に接壤せる江原道の南部に於て行はれ、합니外・헛습니外・하갓습니外の如き日니外の語形は餘り普通に使用せられぬ。

니셔なる語形は右の如く今日にありては慶尙北道地方の一方言と化したか、こは寧ろ朝鮮の古語を存するものと見ることが出来る。「龍飛御天歌」(卷一)に「하나빌마드니잇가」(皇祖其特)とある니잇가、又「엇더하니잇고」(龍飛御天歌)・「能히免리몬하니잇고」(圓覺經)などある니잇고等は之と起原を同じうするものである。

八 니더

目上に對する答の語で、하니더(在現)・히니더(去過)・하갓니더・할나니더(以上未來)の如く使用するもので、慶尙北道及び江原道地方に限つて用ひられる。其の分布状態は次の如くである。

【慶尙北道】

榮州。(하너더・잇너더)。
(等の形を有する)

醴泉。(하너더・잇너더・하겠)。
(너더等の形を有する)

安東。青松。義城。興海。浦項。盈德。慶州。(하너더・잇너더・할나)。
(너더等の形を有する)

【江原道東海岸】

蔚珍。平海(하너더・잇너더・하잇너더)。
(할나너더等の各形を有する)

右により너더の分布を案するに、慶尙北道の東部一帯(問の場合の너셔は盈德・興海・浦項地
方には及ばなかつたが、너더の形は
此等の地方にも及んで居ること)及び江原道蔚珍・平海地方に限られて、最も普通に用ひら
れ、합나다・잇습니다・하습니다の如き하나다の語形は餘り多く用ひられぬ。너
다なる語形は右の如く너셔同様今日は慶尙北道地方の一方言として存在するが、こ
は實は朝鮮の古語を存するものである。古書に見える、

나려셔나다(自起)〔龍飛御天歌〕

聖孫을내시나다(聖孫出兮)〔同前〕

건너시나다(截流)〔同前〕

大瞿曇이일우나다〔月印千江曲〕

普光佛이내르시나다〔同前〕

の나다の如きは、此の너더の起原をなすものである。

九 시더

시더は目上に對する答に用ひられる語で、上なる動詞との接續の様式によつて數種
の別を生じ、各々異なる意義をあらはす。

(아)르시더。할시더の如くいふもので、動詞のㄹ形に續き、未來の義をあらはす。

【慶尙北道】

榮州。醴泉。安東。青松。義城。興海。浦項。盈德。慶州。

【江原道東海岸】

三陟。蔚珍。平海。

京城地方でいふ사람이을시다は謙讓の助動詞오のㄹ形을に시다が附いたもので、

本條の ㄹ시더 と同一系統に屬する語である。

(ㄹ시더) 할참이시더 (하겠습니 의義) 사람시더 (사람이을 의義) の如くいふものである。

【慶尙北道】

榮州。醴泉。安東。青松。義城。興海。浦項。盈德。慶州。

【江原道東海岸】

蔚珍。平海。

(ㄹ시더) 하시더 (합시다 의義) の如くいふものである。

【慶尙北道】

榮州。青松。義城。興海。浦項。盈德。(但し興海・浦項・盈德。ては 하시더 の如くいふ)

【江原道東海岸】

平海。

(ㄹ시더) 합시다 (합시다 의義) の如くいふもので、慶尙北道義城、江原道平海地方に於てのみ使用せられる。

以上により 시더 の分布を案するに、慶尙北道の東部一帯及び江原道三陟以南の地方に限つて頻繁に使用せられることを知るに足るのである。

一〇 는기오

는기오 ・ 잇는기오 ・ 하잇는기오 の如く使用するもので、目上に對する問及び答(殊に問の場合が多い)に用ひる。元來此の 는기오 なる語は 는것이오 (何々するもの てすがの義)に出でたもので、全羅南北・慶尙南北・江原道東海岸地方では 는기오 又は 는게오 として用ひられるが、此等の場合は說話者の心中には朦氣ながらも 것(も) といふ原義を含ませて居る。然るに慶尙北道の一部にありては此の 는기오 及び其の轉訛たる 닝기오 ・ 닝기나 る語は、 것 なる意義を全然包含することなしに、 다나外 (합나아 ・ 잇습니)と同樣純然たる問の語として用ひられる。今其の分布の状態を次に示す。(語法分布圖第五圖參照)

【慶尙北道】

(ㄹ는기오)に發音する地方。尙州。開慶。義城。浦項。盈德。慶州。(하는기오 ・ 잇는기오 ・ 오 ・ 합나는기오)

如くいふ。但し尙州・開慶地方では使用の度が少ない)

(ロ) 닝기오に發音する地方。興海 (하녕기오·잇녕기오·할) (하녕기오·잇녕기오の如くいふ。但し義城地)。

(ハ) 닝기오に發音する地方。青松。義城。(하능기오·잇능기오·할나능기오の如くいふ。但し義城地)。
以上により는기오の分布を案するに、慶尙北道の東部を主要なる地とし、尙州・開慶地方に其の影響を及ぼして居ることを知るに足るのである。尙ほ此の語の使用法に關し、注意すべき二二三の事項を次に述べる。

(一) 는기오(능기오)は専ら問に用ひられる。此の語と起原を同じうし、것(것)の意義を含める는기오・는게오は問に用ひる外、答の場合にも多く用ひられるけれども、純然たる問の意義に於ける는기오(능기오)は問にのみ用ひられる慣習となつて居る。

(二) 는기오(녕기오)は잇(love)なる語に附いて인기오なる形を作り得る。「것(것)の原義を保存する는기오・는게오は하는기오·잇는기오·할나는기오等の如く、現在・過去・未來等各種の時(ナンス)に關する場合にのみ用ひられるが、純然たる問の場合に於ける

는기오(녕기오)は、時(ナンス)に關する場合の外、名詞の下にある잇(잇)にも接續して인

기오(인)ともなり得るのである。即ち

사람인기오 (人でございますか)の義。興。

사람인기오 (海浦項・盈徳・慶州地方の語)。

사람인기오 (意義前に同じ)。

に於ける인기오(인)は名詞の下に附いて純然たる問を形成するが、此等の以外の地方(即ち는기오を는것이오)にありては、사람인기오なる問の形を作ることが出来ぬのである。之を以て見ても、慶尙北道東部に行はれる는기오は純然たる問に使用せられるものであることを證するに足るであらう。加之右地方に於ける目上に對する問の語は上述の는기오(는)が最も多きを占め、日ハ系系ものは餘り多く使用せられぬ事實に徴しても、該語の如何に強固な根柢を有して居るかを知るに足るであらう。

(三) 하는기오の形は用ひられぬ。現在に하는기오、過去に잇는기오を存する以上、未來にも하는기오の形を許し得るやうに思はれるけれども、此等の地方にあり

ては實際上之を使用せず、其の代りとして^テ낙하는기오・^리녕(능)기오・^리나는기오等の語を使用する。

- 할^ㅇ낙^ㅇ하는^ㅇ기^ㅇ오 (咸昌・興海・浦項・盈徳・慶州地方)
- 할^ㅇ녕(능)^ㅇ기^ㅇ오 (興海・浦項・盈徳・慶州地方)
- 할^ㅇ나는^ㅇ기^ㅇ오 (浦項・盈徳・慶州地方)

一一 능게라오

하는게라오・잇는게라오・하겟는게라오・사람인게라오等動詞の各種の時テに附せられ、目上に對する問及び答の場合に用ひられる(併し問の場合に比し)。元は하는것이오の義であらうけれども、現今は純然たる一箇の助詞として使用せられ、地方により는그라오の形をも取る。今次に其の分布狀況を示す。(語法分布圖第六圖參照)

【忠清北道】 無し

【忠清南道】

(イ)는거라오に發音する地方。汚川。保寧。鴻山。(尙ほ詳しくいへば汚川は는거라오、保寧は는거라오に發音する。扶餘に한거오なる語のあるのも此の語の轉であらう。)

(ロ)는가라오に發音する地方。公州。

【全羅北道】

(イ)는게라오に發音する地方。全州。南原。(未來하겟는거라오の뜻は大に於て發音される)

(ロ)는그라오に發音する地方。群山。任實。井邑。金堤。(井邑・金堤地方では하는그라오といふ)

(ハ)는게라に發音する地方。茂朱。(하는게라오を하는게라といひ、잇는게라오を잇는게라といふ類である)

錦山地方には는게라오系の形を缺く。

【全羅南道】

는게라오に發音する地方。光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。筏橋。寶城。木浦。咸平。羅州。長城等の地方で、突山。麗水。高興。長興。靈光地方では大體使用せられぬ。(但し谷城・求禮・順天地方では하는게라오、하겟는게라오等のおはすと發音する)

【慶尙北道】 無し。

【慶尙南道】 無し。

【江原道東海岸】 無し。

要するにハゲラオの語形は全羅南北道の大部分を主要なる地とし、忠清南道は多少其の影響を受けて居ることを知るに足るのである。

一三 ハゲラオ

ハゲラオの如くいふもので、前項中のハゲラオ(現在)と同一意義である。恐らくはハゲが縮約せられてハとなつたものであらう。其の分布の状況は、

【全羅北道】

(イ) ハゲラオに發音する地方。南原。任實。

(ロ) ハゲラオに發音する地方。井邑。

【全羅南道】

ハゲラオに發音する地方。光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。筏橋。寶城。

長城。海南。木浦。咸平。羅州。長城。靈光(但し谷城。求禮。順天地方ではハゲラオのオをウと發音する)であつて、大體に於て前條ハゲラオの分布と一致するのを見るのである。

一四 ハゲラオ

ハゲラオの如くいふもので、目上に對して用ひられ、現在にのみ使用せられる。大體に於て問及び答何れにも兼用される。其の分布の状況は、

【全羅北道】 井邑。金堤。

【全羅南道】 光州。玉果。谷城。求禮。順天。筏橋。寶城。長興。木浦。咸平。

長城。(但し求禮。咸平地方では答には使用せぬ)

であつて、全羅南道を主要なる地とし、全羅北道の南部に影響を及ぼして居る。要するに前々條ハゲラオ、前條ハゲラオと大體に於て分布の狀態を同じうするものが見ることが出来る。

一四 ハゲラオ

히지라오・하갓지라오の如く過去及び未來に對して用ひられ、大體に於て問及び答の何れにも兼用される。其の分布状態は、

【忠清南道】 沔川。洪城。保寧。藍浦。鴻山。扶餘。江景 (但し沔川・洪城地方では之を問に使用することなく、又沔川地方に於て答に用ひる。)

【全羅北道】 群山。全州。任實。南原。井邑。金堤 (何れも問及び答に用ひられる。但し井邑・金堤地方では히지라오・하갓지라오のオはウと發音される。又茂朱地方では히지라오・하갓지라오とて語尾のオを省略して用ひるが、これは問には無く、答にのみ用ひられる。)

【全羅南道】 光州。玉果。谷城。求禮。筏橋。寶城。長興。海南。木浦。咸平。羅州。長城。靈光 (突山・麗水・高興地方には存在せぬ。)

以上により지라오の分布を案するに、忠清南道・全羅南北道の三道に行はれることを知るに足る。

一五 지라오

히지라오 (去) 히지라오・하갓지라오 (以上) 사름이지라오 (어(으)하(나)る語の下) 等の如くいひ、目上

に對して用ひられ、大體に於て問及び答の何れにも兼用せられる。本來此の지라오の지는指定の義ある助詞で、히지・하지・하갓지・사름이지だけでも語を成し得るものであるが(目下に對する)、それに라오が附いて謙讓の助詞に轉じたのである。今此の語の分布状態を見るに、

【忠清南道】 沔川。廣川。保寧。藍浦。鴻山。扶餘。江景。公州 (此等の地方にありては지라오は히지라오の如く殆んど過去の場合にのみ用ひられ(히지라오は保寧・藍浦・鴻山・扶餘・江景・公州地方にありては問及び答の何れにも用ひられるが、沔川・廣川地方は答にのみ用ひる) 사름이지라오の形は藍浦・扶餘地方に存するのみである。全羅道地方に行はれる。하갓지라오・하갓지라오は本道では用ひられぬやうである。)

【全羅北道】 群山。全州。任實。南原。井邑。金堤。 (忠清南道にありては지라오は히지라오の如く主として過去の場合に用ひられるけれども、本道にありては히지라오・하갓지라오・사름이지라오等各種の場合に用ひられる。但し此等の語の語尾にあるオは井邑・金堤地方にありてはウと發音せられる。)

【全羅南道】 光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。筏橋。寶城。長興。海南。木浦。咸平。羅州。長城。靈光 (突山・麗水・高興地方は之を缺く。而して지라오が各種の語の下に附くこと全羅北道と同一である。)

の如くなる。之により지라오分布の状態を案するに、忠清南道及び全羅南北道の三道に行はれて居るが、忠清南道にありては其の使用の程度が他道に比し餘程薄弱であ

る。

一六 지라오

하지라오の如くいふもので、未來の義を有し、目上に對して用ひ、概して問及び答の何れにも使用される。地方によつて핫개라오・하지라오ともいふ。今其の分布の狀態を左に示す。(語法分布圖第七條參照)

【全羅北道】

(イ) 하지라오に發音する地方。群山。全州。任實。井邑。金堤(但し井邑・金堤では語尾の오を우と發音する。又全州・任實では答には使用せぬ。)

(ロ) 핫개라오に發音する地方。南原。(但し此の地方では答には使用せぬ。)

(ハ) 핫개라오に發音する地方。茂朱。

【全羅南道】

하지라오に發音する地方。光州。玉果。谷城。順天。光陽。筏橋。長城(以上の地方に)

ありては大體に於て問及び答の何れにも用ひられる。而して此の語形は突山・麗水・高興・寶城・長興・海南・木浦・咸平等の海岸地方及び靈光・羅州等の地に存せぬ。

濟州島方言中、目下に對する語に하키여(問に用ひ、答に用ひ、同輩に對する語に할젠가)

(問に用ひ、答に用ひ、同輩に對する語に할가)、(問に用ひ、答に用ひ、同輩に對する語に할가)

(問に用ひ、答に用ひ、同輩に對する語に할가)、(問に用ひ、答に用ひ、同輩に對する語に할가)

(問に用ひ、答に用ひ、同輩に對する語に할가)、(問に用ひ、答に用ひ、同輩に對する語に할가)

以上により거라오の分布を案するに、

(一) 거라오に發音する地方。全羅北道、中部以西の地。

(二) 키라오に發音する地方。全羅南道内の各地。

の二に大別することが出來、其他거라오は茂朱に、키라오は南原地方に孤立して存することを知るに足るのである。

一七 라오

사람이 라오の如く호오なる語の下に附くもので、目上に對して用ひ問及び、答の何

れの場合にも兼用せられる。其の分布の状態は、

【全羅北道】

(イ) 라오に發音する地方。群山。全州。任實。南原。井邑。金堤。(但し井邑・金堤地方

と發音する)

(ロ) 라に發音する地方。茂朱。(此の地方ではそ라오・라오(各條參照)等に於ける語尾の오をも省略する慣習である)

【全羅南道】

라오に發音する地方。光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。筏橋。寶城。長

興。海南。木浦。咸平。長城。(突山・麗水・高興地)方には之を缺く)

の如く、全羅南北兩道に於て行はれるのである。

一八 ㄱ

하겡소(하겡소 義) 하겡네(하겡네 義) 하겡다(하겡다 義) 하겡지(하겡지 義) 와겡지(와겡지 義) の如くいふも

ので、尊敬の義を有する。其の分布の状態を示すと、

【全羅北道】 群山。全州。金堤。茂朱。(南原では하겡소を)。

【全羅南道】 玉果。谷城。求禮。順天。光陽。筏橋。寶城。長興。海南。木浦。

咸平。羅州。長城。(突山・麗水・高興地)方には行はれぬ)

であつて、専ら全羅南北兩道に行はれるものであることを知るに足るであらう。

又は尊敬の義に使用せられる。吏讀中に「在」の字をぞと讀ませてあるが、恐らくは

本條に述べたㄱの連體形に當るものであらう。

一九 시오

사람이시오の如くい (to be) なる語の下に附し、目上に對して用ひられる。これは全羅南道中光州・求禮・順天・光陽・寶城・長興・咸平・羅州・長城地方で問或は答に用ひられるだけで、使用の範圍が非常に狭い。

又全羅南道地方には右시오の省畧形たる시(사람이시)を問に用ひることがある(次條とは異なり、)。

(次條參照)

二〇 三列、ロ列、シ、サ、

사람일列の如く "to be" の一形に列を附するか、사람이로列・사람이列・사람이시의如く이にロ列・列・시又は새を附するもので、同輩に對する答の語である。今分布の状態を次に示す。(語法分布圖第八圖参照)

【忠清北道】

三列に發音する地方。清州。忠州。鎮川。槐山。永同。

【忠清南道】

三列に發音する地方。禮山。沔川。海美。洪城。廣川。保寧。藍浦。鴻山。扶餘。江景。公州。鳥致院。

【全羅北道】

(イ) 三列に發音する地方。群山。全州。茂朱。
(ロ) 三列・シ・列に發音する地方。任實。
(ハ) 三列・シに發音する地方。南原。

(ニ) 三列・列に發音する地方。井邑。

【全羅南道】

(イ) 三列・シに發音する地方。長城。
(ロ) 三列に發音する地方。光州。求禮。順天。光陽。突山。麗水。高興。筏橋。寶城。長興。海南。
(ハ) 三列に發音する地方。玉果。谷城。木浦。咸平。羅州。靈光
(但し谷城地方では少しくロ列の形をも使用する。)

【慶尙北道】

(イ) 三列に發音する地方。尙州。開慶。
(ロ) 三列に發音する地方。咸昌。榮州。醴泉。安東。青松。義城。興海。浦項。盈德。慶州。

【慶尙南道】

(イ) 三列に發音する地方。蔚山。河東。南海。巨濟。

(口)列に發音する地方。統營。

(ハ)列に發音する地方。東萊。密陽。昌寧。陝川。居昌。馬山。

【江原道東海岸】

(イ)三列に發音する地方。通川。長箭。高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。

(ロ)三列・列に發音する地方。蔚珍。平海。

以上により三列・三列・列・列・列等の分布を案ずるに、

(一)三列に發音する地方。忠清南北道・全羅北道及び江原道を主要なる地とし、全羅南道の北部及び慶尙北道の西部は之が影響を蒙り、慶尙南道の海岸地方にも之が影響を及ぼして居る。

(二)二列に發音する地方。慶尙南道の一部に於てのみ行はれる。

(三)列に發音する地方。全羅北道の南部、全羅南道の北部に於て行はれ、江原道蔚珍・平海地方に突發する。

(四)列に發音する地方。慶尙北道の大部分に於て行はれる。

(五)列に發音する地方。全羅南道の大部分及び全羅北部の南部に於て行はれる。

二二 口列

함녀(在) ㅎ심녀(去) 하것심녀(來) の如くいふもので、目上に對する間に用ひられる。此の使用範圍は極めて狭小で、全羅南道の玉果・谷城・求禮・順天・光陽・高興・筏橋・寶城・羅州地方で行はれる(全羅南道中ても突山・麗水・長城・海南・木浦・咸平・長城・靈光地方では行はれる)。

濟州島方言中には此の口列に類似した形が存して居る。即ち함녀(現在、함) 하
염주(現在、하)의 如きこれである。然らば此等濟州島方言の口は本來如何なる語であ
つたらうか。余は之をかなる動詞の名詞を作るもので、함녀(함)가(今が)は
함녀(함)의(今の)의 省略形、하염주는 하염이(하)의(今の)의 省略形であると信ずる。同島方言
の敬語の間の(하)의 省略形、하염주는 하염이(하)의(今の)의 省略形であると思はれる。同島方言
で目下に對する間(하)의(今)に함녀(함)의(今)なる語があるが、これまた함녀의(今)의(今)の間の助詞に變じて
함녀(함)의(今)의(今)なる語の省略形である。此等の現象より推すも、全南地方に行はれる함녀(함)의(今)의(今)の
なる形は、前記濟州方言と其の起原を同じうするもので、本來は名詞形に出でたも

のであらう。

一一一 을습니다

사람이을시다は朝鮮何れの地にも普通に用ひられるが、忠清南道の全部及び江原道東海岸では사람이을습니다の形を有する。

一一三 口列

함列の如くいひ、未來の義を有し、同輩に對する答の場合に用ひられる。其の分布状態は

【慶尙北道】

함새に發音する地方。全部。

【江原道東海岸】

함列に發音する地方。杆城。襄陽。注文津。三陟。江陵。蔚珍。平海。

であつて、慶尙北道及び江原道に限つて用ひられるのである。

一一四 三새

함새の如くいひ、未來の義を有し、同輩に對する答の場合に用ひられる。其の分布状態は、

【慶尙北道】 榮州。醴泉。義城。興海。浦項。盈德。慶州。

【江原道東海岸】 三陟。蔚珍。平海。

であつて、慶尙北道及び江原道の一部に於て用ひられるのである。

一一五 지러・지를

하지「する積り」の義で未來の意がある·히지「去」に러又は을の附いたもので、目下に對する答に用ひられる。其の分布状態は、

【慶尙北道】

지리(此の地方では지)に發音する地方。義城。興海。浦項。盈德。慶州(리가用ひられる)。

【江原道東海岸】

지를(此)に發音する地方。蔚珍。平海(蔚珍・平海地方に用ひられる)。
であつて、慶尙北道東部及び之に近接せる江原道海岸地方に行はれる。

二六 라

사람이라(此)の如くいふもので、"to be"なる語の下に付き、目下に對する間に用ひられる。これが使用範圍は慶尙北道中咸昌・榮州・醴泉・安東・青松・義城・興海・浦項、江原道東海岸地方中蔚珍地方に限られて居る。

二七 ㄷ

할다(此)の如くいふもので、하되(此)と同じく未來の義を有し、目下に對する答をあらはす語である。之が分布の範圍は慶尙北道中榮州・醴泉・安東・青松・義城・興海・浦項。

盈德・慶州、江原道東海岸中三陟・蔚珍・平海地方である。

此の語は古い朝鮮語にも存したものと見えて「朴通事諺解」には「모로미맛고갈다」(好歹喫打去)の如き用例がある。

二八 ㅁ

사람이ㅁ(此)の如くいふもので、"to be"なる語の下に付き、目下に對する問をあらはすものである。江原道東海岸中杆城・注文津・三陟・江陵地方に行はれる。江原道地方の特有語に한ㅁ(此)・하ㅁ(此)・하ㅁ(此)・하ㅁ(此)などいふ語があるから(此の條参照)本條のㅁも此の義のㅁでないかとも考へられるけれども、한ㅁ(此)・하ㅁ(此)等のㅁは答にのみ用ひられ、本條のㅁは問にのみ用ひられるから、兩者の間に劃然たる區別がある。本條のㅁは恐らくはㅁなる語の轉であらう。

濟州島方言中、目下に對する問に할ㅁ(在)・하ㅁ(在)・하ㅁ(去)・하ㅁ(來)なる語があるが、(此は半島語のみに)此等のㅁも疑問の助詞ㅁの轉であらう。

二九 다야

한다야(在現)·히다야(去過)·하랴다야·할난다야(以上)·사람이다야(以下)の如くいふもので、目下に對する答に用ひられる。其の分布の状態は、

한다야。사람이다야。注文津。三陟。江陵。蔚珍。平海。

히다야。하랴다야。杆城。襄陽。注文津。三陟。江陵。蔚珍。平海。

할난다야。注文津。江陵。平海。

等の如く江原道の東海岸に於てのみ行はれる。

元來此の語の語尾に存する야は語の意味を強めるために用ひる助詞であつて、한다(히다·하랴다·할난다·사람이다)と야との間に時間を置いて兩語を別々に發音するのが原則であり、實際に於てもかく發音せられることがあるのであるが、普通の場合にありては한다야(히다야等之に準ず)は全然一語に融化し、한다·히다等と同意義に使用せられるのである。

三〇 지야

히지야(去過)·하갓지야·하지야·할나지야(以上)·사람이지야(以下)の如くいふもので、目下に對する答に用ひられる。其の分布の状態は次の如くである。(語法分布圖第九圖參照)

【忠清南道】

하지야。藍浦 (問み)。

【全羅北道】

히지야·하지야·하갓지야·사람이지야。群山。全州。任實。南原。井邑。金堤。(問み)。

【全羅南道】

히지야·하지야·하갓지야·사람이지야。全部。(問み)。

【慶尙北道】

히지야。青松(問み)。

【江原道東海岸】

헛지야・하지야・하긱지야・사람이지야。全部(但し問にのみ用ひる。而して지야の形。以上により지야の分布を案するに、全羅南北道及び江原道を以て主要なる地とし、忠清南道及び慶尙北道の一部に其の影響を及ぼして居ることを知るに足るのである。)

三一 列・지・자・장・주

헛지(去過)、하지・하긱지(以上未來)、사람이지(下に)に於ける지는各道共通であるが、本條にあるものは헛지(去過)、하긱지・하긱지(以上未來)、사람이지(下に)の如くいふ列を指すのである。而し列ては地方によつて지・자・장等となる。目下に對して用ひる語で、列は多く答に、지는多く問に、자及び장은問に用ひられる。今其の分布の状態を次に示す。(語法分布圖第十圖參照)

【全羅北道】

イ列に發音する地方。全州。任實。南原。井邑。金堤(헛지・하긱지・하긱지・사람이지。といひ、專ら答に用ひられる。)

ロ) 자に發音する地方。茂朱(하자といひ未來を意。味する。問に用ひる。)

ハ) 장に發音する地方。茂朱。錦山(헛장・하긱장・사람이장。といひ、問に用ひられる。)

【全羅南道】

イ列に發音する地方。谷城。順天。高興。寶城(헛지・하긱지・하긱지・사람이지。の如くいひ、答に用ひられる。)

ロ) 지に發音する地方。求禮(하지・하긱지의如くいひ、答に用ひられる。)

濟州島には同輩に對する答の場合に하염주・하염주기(在現)、하엿주・하엿주기(去過)、하주・하주기(來未)等の語があり、目下に對する答の場合に하염지(在現)、하엿지(去過)等の語があるが、此等の語中にある주及び지는本條の지와語原を同じうするものであらう。

【慶尙北道】

지에發音する地方。青松。慶州。盈德。浦項。興海。義城(헛지・사람이지の如くいひ、大體に於て問に用ひられる。)

【江原道東海岸】

次に發音する地方。全部。(할지, 하지, 사답이, 지의如)

以上により列の分布を案するに、

(一) 列に發音する地方。全羅南北道の一部に行はれる。

(二) 列に發音する地方。江原道の全部及び之に隣接せる慶尙北道の東部地方に行はれる。

(三) 列又は字に發音する地方。錦山。茂朱地方。

の如き結果を得る。上述以外の地方に於ては總て지を用ひるのである。

三三 ㄹ나(ㄹ난·ㄹ니)

할나[○]는기오·할[○]난(는)가·할[○]니[○]다等の如く、動詞のㄹ形に나·니等の語の附くもので、「何々せんとする」の義をあらはし、其の下に連續する語によつて各種の語形を生ずる。今次に其の分布の状態を示す。

(イ) ㄹ나

할남니[○]다(다)。比較的廣く各地に亘つて用ひられる。남니[○]다(다)は元來京城地方の語であるからである。

할나니[○]다(다)。慶尙北道中醴泉・安東・義城(以上多く問のみに)興海・浦項・盈徳・慶州(以上

答のみに)江原道東海岸中三陟・蔚珍・平海(及及び의 兩者に)地方に用ひられる。

할나[○]는기오。慶尙北道の一部に存する語で、目上に對する問(時としに用ひられる

(는기오の) 條参照)

할는기오。目上に對する問に用ひ、慶尙北道中盈徳・慶州地方、慶尙南道蔚山地方の語である。但し興海・浦項地方では할는기오といふ。

할나[○]요。慶尙南道の大部分及び江原道東海岸杆城・襄陽・注文津・三陟・江陵・蔚珍・平海地方では目上又は同輩に對する問に用ひられる。

할나[○]구요。目上に對する問の語で、江原道東海岸中平海地方の語である。

할나[○]는가。前條と同義で、江原道東海岸中高城・杆城・襄陽・注文津・江陵・蔚珍・平海地方で行はれる。

할나네。同輩に對する答に用ひられるもので、慶尙南道中昌寧・巨濟地方、江原道東海岸中高城・襄陽・注文津・江陵・蔚珍・平海地方の語である。
 할나。할나요の敬語を缺いたもので、目下に對する間に用ひ、慶尙北道榮州・醴泉・浦項・盈德地方の方言である。

할나나。前條と同義で、慶尙北道中安東・青松・義城・興海・浦項・盈德・慶州地方、慶尙南道中東萊・密陽・金海・南海・統營地方、江原道海岸中高城・杆城・襄陽・注文津・江陵・蔚珍・平海地方で行はれる。

할나(又)가(나)。目下に對して用ひる語で、慶尙北道中榮川(問の外)・安東・青松・義城・興海・浦項・盈德・慶州(以上答の)・慶尙南道中蔚山・東萊・密陽・陝川・金海・南海・統營・巨濟(以上問の外及び答)・江原道海岸中高城・江陵(以上答の)・杆城・注文津・蔚珍・平海(以上問の外及び答)地方に行はれる。

(라)리니
 할니셔(더) 目上に對して用ひる語で、慶尙北道中榮州・醴泉地方(問の外)・江原道

東海岸中蔚珍・平海地方(問の外、答の)に行はれる。

以上によつて觀察する時は、고나・다나・리니等の形式による言ひ表はし方は、主として慶尙南北道の東部及び之に隣接せる江原道の海岸地方に使用せられることを知るに足るのである。

三三 ㅅㅅ하

할ㅅ하나다・할ㅅ하나다などの如く動詞のㅅ하形にㅅ하の附くもので、前條同様「何々せんとする」の義を有する語である。下に連續する語によつて各種の語形を生ずる。今其の分布の状態を示すと、

할ㅅ하나다(다)。慶尙北道中尙州・咸昌・開慶地方(問の外)慶尙南道中蔚山・東萊・金海に用ひられる。다나外(다)(同條参照)の形は本來慶尙南北道地方の言語でないのであるが(本來の語はㅅ하나, 다나(各條参照)及び本條의ㅅ하하を以てあらはす)京畿・忠清方言の影響を受けて此の形を生んだのである。

할낙하느기오。目上に對する間に(時とし)用ひられる語で、前條の할낙합니外(다)に對すれば、こは純粹の慶尙方言である。其の分布は慶尙北道の東部を主要なる地とし、느기오(其の條)の分布と一致する。

할낙하녀(더)。目上に對して用ひる語で、これもまた純粹の慶尙方言である。其の分布は慶尙北道の東部及び江原道蔚珍・平海地方に限られ、녀(더)(其の條)の分布と一致する。

할낙하오。目上又は同輩に對して用ひる語で、大體問答何れにも使用せられ、慶尙北道中大邱・尙州・永川・星州・金泉地方、慶尙南道中蔚山・東萊地方で行はれる。

할낙한다。目下に對して用ひる語で、答に使用せられ、慶尙北道中慶州・星州・金泉地方、慶尙南道中蔚山・東萊地方、江原道中平海地方で行はれる。

以上によつて느기오分布の状態を案するに、할낙하느기오・할낙하녀(더)等は慶尙北道の東部及び江原道の海岸の一部に使用せられ、할낙하오・할낙한다の如きは、

慶尙北道の南部及び慶尙南道の東部海岸地方に用ひられるのであるから、其の分布の状態が全然相一致せざる現象を呈して居るけれども、其の느기오を使用せる點に於ては共通點を有して居る。故に느기오の行はれる範圍は江原道の東南一隅に端を發し、慶尙北道の殆んど全部を占め、慶尙南道の東部海岸一帯を含めるものと見るのが穩當であらう。慶尙南道金海地方に於ては할낙합니外なる語が卑語と考へられて居る事實に徴しても、其の勢力の同地以西に及ばぬことを推測するに足るであらう。

三四 기라오(거라오)

하게라오・하거라오の如くいふもので、目上に對する命令又は願望の義に用ひられる。此の語の用ひられるのは全羅北道の井邑(하거)金堤(하계)地方である。又之に一層敬意を含ませた하례게라오なる形も上記井邑・金堤地方に存して居る。

三五 시가오

시가오の如くいふもので、前條と同様目上に對する命令又は願望に用ひられる。
忠清北道清州・忠州地方に行はれる語である。

三六 全

全の如くいふもので、目上に對する命令又は願望に用ひられる。此の語は全羅南
北道・慶尙北道の全部、慶尙南道の大部分及び忠清北道の一部(水)、忠清南道の一部
(鴻山・保寧・禮山)、江原道海岸中の一部(杆城・蔚珍・平海)に行はれる(但し浦項・盈徳・慶州)。

三七 시시오

시시오の如くいふもので、目上に對する命令又は願望をあらはす語である。其の
分布状態は次の如くである。

【全羅南道】 全部(但し本道ではすべて하시시오といふ)。

【慶尙北道】 興海。浦項。盈徳。

【慶尙南道】 居昌。馬山。

【江原道東海岸】 杆城。注文津。蔚珍。平海。

即ち시시오の分布は全羅南道を主要なる地とし、慶尙南北道及び江原道の海岸地方
に行はれて居るのである。

慶尙北道義城地方には하시시오なる形が存して居る。これは本條시시오の省略形であ
る。

又義城地方には하시시오なる形も存して居る。これは前項하시시오の省略か、又は하시오
の省略せられたものと見ることが出来る。

三八 시소

시소의如くいふもので、目上に對する命令又は願望をあらはす語である。其の分
布状態は次の如くである。

【全羅南道】 全部。

【慶尙北道】 全部。

【慶尙南道】 密陽。金海。馬山。

【江原道東海岸】 蔚珍。平海。

即ち시소의分布は全羅南道及び慶尙北道を主なる地とし、慶尙南道及び江原道の海岸地方に行はれて居るのである。

慶尙南道密陽地方には하이소なる形がある。これは本條하시소의轉と見ることが出来る。

시소는朝鮮の古語を傳へたものである。例へば「捷解新語」中に잘드르시소(よう聞かしられ)・하를마르시소(御免なされ)などあるこれである。

三九 사시소

하시시소의如くいふもので、願望の最敬語である。慶尙北道盈徳・慶州地方に行はれ

て居るだけである。

四〇 日하

하하・감하の如くいふもので、目上に對する願望又は命令をあらはす語で、濟州島の方言である。

四一 日하

하하の如くいふもので、同輩に對する命令をあらはす語である。하하又は하하なる形は全鮮到る處に共通に存して居るけれども、하하の形は江原道海岸中高城・襄陽・江陵地方に行はれるのである。

四二 시다

하시다の如くいふもので、目上又は同輩に對して「一緒に何々しませう」と促す義を

有する語である。恐らくは합시다の轉であらう。慶尙南道中河東・南海地方に行はれる。

四三 시시다

하시시다の如くいふもので、目上に對して「一緒に何々しませう」と促す義を有する語である。하십니까の轉であらう。慶尙南道河東地方に行はれる。

第三編 語彙

가(助詞、が)。래(全南)大靜。(아버지가, 소가를 아버지래, 소래といふ類。此の語平安道方面にも存するやうである。)

가마귀(鳥)○외마귀(全南)寶城。長興。○외구매(忠南)扶餘。瑞山。洪城。

가볍다(輕)○가볍다(全南)高興。筏橋。長興。海南。木浦。莞島。智島。靈光○개

법다(全北)全部(全南)光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。寶城。咸平。羅州。

長城○기잡다(全南)突山。麗水。(慶南)河東。

가얏(榛實)○개얏(忠南)天安○개양(忠南)瑞山○개금(全北)群山。全州。井邑。金

堤。(忠南)沔川。海美。葛山。洪城。青陽。廣川。保寧。藍浦。鴻山。扶餘。江景。

公州。○개감(忠南)鳥致院○개금(全北)任實。南原。茂朱。錦山。(全南)全部。

가외(缺)○가외(慶北)榮州。青山。義城。興海。浦項。盈德。(江原)江陵。○가새(忠

北)全部。(忠南)全部。(全北)全部。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。長興。海南。木

浦。莞島。智島。靈光。咸平。羅州。長城。濟州。(慶北)尙州。聞慶。咸昌。榮州。

醴泉。安東。靑山。(慶南)馬山。(江原)全部。○가시개(全南)順天。光陽。突山。
 麗水。高興。筏橋。寶城。(慶北)義城。興海。浦項。盈德。慶州。(江原)蔚珍。平海。
 가을(秋)○가실(全北)全部。(全南)全部。(江原)江陵。蔚珍。注文津。
 外치(鵲)○안치(忠北)淸州。(全北)全部。(全南)寶城。光州。麗水。順天。長興。(慶
 南)河東。○안청이(慶北)靑山。慶州。(慶南)馬山。
 갈기(鬣)○소솔와지(全南)旌義。
 갈키(熊手)○알키(忠北)鎭川。
 감(料)○가실(全南)光州。
 감스(蜜柑)○산물(全南)濟州。
 갓갑다(近)○가참다(慶南)馬山。○가직다(慶北)慶州。○개죽다(全南)麗水。○가악
 하(慶北)慶州。
 개(獠)○족집이(全南)旌義。
 개(浦)○개맛(全南)旌義。

개구리(蛙) ○개구리(忠北)淸州。○개구락지(忠南)扶餘。○개고락지(江原)高城。
 杆城。襄陽。江陵。蔚山。○가감이(全南)旌義。
 거머리(蛭) ○검커리(忠北)永同。槐山。淸州。忠州。(忠南)扶餘。(慶北)尙州。聞慶。
 咸昌。榮州。醴泉。安東。義城。○거멀장(全南)濟州。○검챙이(慶北)慶州。
 거위(鵝) ○게우(忠北)全部。(全北)全部。(忠南)全部。(慶北)尙州。聞慶。咸昌。(江
 原)杆城。注文津。蔚珍。平海。○기우(慶北)榮州。醴泉。安東。靑山。義城。興海。
 盈德。慶州。○카이(慶北)興海。浦項。○기을(慶北)浦項。○케우(江原)襄陽。江陵。
 거들(泡) ○거름(忠南)沔川。瑞山。海美。葛山。洪城。靑陽。廣川。○버금(全南)
 玉果。谷城。長興。海南。靈光。咸平。○버금(全南)光州。求禮。順天。光陽。突
 山。麗水。高興。筏橋。寶城。○버름(全北)全部。(全南)長興。海南。木浦。莞島。
 智島。咸平。羅州。長城。(忠南)沔川。保寧。藍浦。鴻山。
 걱정한다(憂慮) ○커든다(全南)濟州。
 겁질(殼) ○각지(全南)旌義。○각막이(全南)旌義。

계(蟹) ○계(慶南)陝川。○구이(忠北)鎮川。槐山。忠州。清州。(忠南)禮山。沔川。瑞山。海美。葛山。洪城。青陽。廣川。保寧。藍浦。鴻山。扶餘。公州。天安。烏致院。○기(忠北)永同。忠州。(全北)全州。井邑。金堤。茂朱。錦山。(全南)突山。筏橋。長興。海南。木浦。莞島。智島。羅州。長城。(忠南)江景(慶北)全部。(慶南)密陽。東萊。蔚山。(江原)全部。○기(慶北)星州。(慶南)昌寧。

게(女) ○게집(全北)任實。南原。(全南)玉果。谷城。求禮。順天。光陽。高興。寶城。(慶北)知禮。(慶南)全部。○지(忠北)永川。鎮川。槐山。忠州。清州。(全北)全州。井邑。金堤。茂朱。錦山。(全南)光州。突山。麗水。筏橋。長興。海南。木浦。莞島。智島。咸平。羅州。長城。(忠南)全部。(慶北)大部分。

게집의(女兒) ○가신애(全北)任實。○가신애(慶北)慶州。○가스네(全南)。長興(慶南)統營。○비바리(全南)濟州。○메시(江原)高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚珍。平海。

겨우(僅) ○게우(全南)突山。麗水。長興。靈光。(慶北)靑山。永同。(慶南)居昌。○게

우(慶北)榮州。○케우(忠南)全部。(全北)全部。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。筏橋。寶城。長興。咸平。羅州。長城。(慶北)金泉。知禮。永川。大邱。(慶南)陝川。昌寧。密陽。馬山。○재우(全南)莞島。智島。(慶北)榮州。星州。(慶南)東萊。蔚山。○재와(慶北)義城。○재고(慶北)興海。慶州。○재구(慶北)浦項。慶州。○지우(全南)海南。木浦。(慶北)尙州。聞慶。咸昌。醴泉。安東。○지(慶北)盈德。○선도시(全南)谷城。求禮。順天。光陽。○선도시(全南)突山。麗水。高興。筏橋。寶城。長興。海南。木浦。莞島。智島。靈光。咸平。羅州。長城。

겨을(冬) ○키을(忠北)永同。清州(慶北)尙州。聞慶。咸昌。醴泉。安東。慶州。金泉。知禮。星州。永川。大邱。(慶南)大部分。(江原)高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚山。平海。○키슬(全北)全州。任實。南原。井邑。金堤。(全南)全部。(江原)蔚珍。○키실(全南)旌義。(慶北)興海。浦項。盈德。慶州。(江原)平海。○킬가(忠南)公州(全北)金堤。茂朱。錦山。○키(忠北)清州。(忠南)禮山。沔川。瑞山。海美。洪城。青陽。廣川。保寧。藍浦。鴻山。扶餘。江景。公州。天安。烏致院。

거자(芥) ○거자(忠北)永同。鎮川。淸州。○키자(忠北)槐山。忠州。淸州。
 꼬리(尾) ○꼬랑지(忠南)扶餘。(全南)光州。長興。○뽕당지(全南)旌義。○뽕덩이
 (忠南)扶餘。○뽕덩이(慶北)靑山。慶州。
 고양(貓) ○괘이(忠北)淸州。(忠南)扶餘。公州。(全南)寶城。○킹이(慶南)馬山。
 ○괴(全南)麗水。筏橋。○래(全南)寶城。○괴덕이(全南)長興。
 꿀(荔) ○알(忠北)淸州。(忠南)洪城。(全南)谷城。○출(全南)旌義。
 굼비(耨) ○석(全南)旌義。○죽대(全南)旌義。
 과부(寡婦) ○호불어미(慶北)慶州。
 광주리(籠) ○광우리(忠北)淸州。
 구멍(穴) ○고망(全南)濟州。○구괴(全南)濟州。(慶北)慶州。
 구옹(槽) ○귀이(慶北)興海。浦項。盈德。慶州。○구시(忠北)永同。(全北)全部。(全
 南)全部。(慶北)尙州。開慶。(江原)平海。○구수(忠北)淸州。(全北)群山。任實。(忠
 南)全部。○귀승(江原)杆城。襄陽。

국물(羹汁) ○국말국(忠北)鎮川。(忠南)扶餘。
 굴에(勒) ○가달석(全南)旌義。
 그네(鞦韆) ○그늬(忠南)大部分。○그늘(江原)注文津。江陵。○그누(忠北)槐山。淸
 州。○구네(江原)杆城。襄陽。○구늬(江原)蔚珍。○구누(江原)蔚珍。○구늬(忠北)
 鎮川。忠州。○근데(忠南)扶餘。(全北)茂朱。○근디(全北)全州。任實。南原。井邑。錦
 山。(忠南)扶餘。江景。公州。○군두(全南)木浦。智島。○군디(全南)咸平。寶城。(慶
 北)尙州。開慶。咸昌。安東。榮州。醴泉。靑松。義城。興海。浦項。盈德。慶州。(慶
 南)馬山。○군대(慶北)慶州。○런디(全北)錦山。○르지(全北)金堤。(全南)大部
 分。○군지(全南)麗水。長興。○군기(慶北)安東。○쿠구(江原)平海。○질매(全北)
 全州。井邑。金堤。
 그리케(斯樣) ○그명(全南)濟州。
 끈(紐) ○인(慶北)靑松。○인앵이(忠南)禮山。○인아쟁이(慶北)慶州。
 글피(明明後日) ○곰피(全南)寶城。○곰패(全南)麗水。○그모래(慶南)馬山。

기력이(雁) ○기러기(慶北)榮州。醴泉。安東。義城。盈德。○기리기(慶北)靑松。興海。浦項。慶州。金泉。知禮。星州。永同。大邱。(慶南)大部分。○지리기(慶北)尙州。開慶。咸昌。

기싱(妓生) ○키머(全南)旌義。

기와(瓦) ○개와(慶北)榮州。安東。興海。○지와(忠北)永同。鎮川。(全北)全州。任實。井邑。金堤。茂朱。錦山。(全南)谷城。長興。咸平。羅州。長城。(忠南)禮山。沔川。瑞山。海美。葛山。(江原)高城○지아(忠北)忠州。清州。(忠南)洪城。(全南)筏橋。○지애(忠北)永同。鎮川。(慶北)咸昌。義城。○지안(忠南)洪城。靑陽。廣川。保寧。藍浦。鴻山。扶餘。江景。公州。天安。烏致院。(全北)全州。任實。南原。井邑。金堤。(全南)大部分。○지애(全南)麗水。○재(全北)茂朱。錦山。(全南)突山。麗水。(慶北)尙州。開慶。咸昌。榮州。醴泉。安東。靑松。興海。浦項。盈德。慶州。金泉。知禮。星州。永川。大邱。(慶南)密陽。(江原)杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚珍。平海。○재와(慶南)居昌。陝川。昌寧。東萊。蔚山。○지새(全南)濟州。

길은다(養) 키은다(全南)順天。

나무(木) ○남(全南)旌義。濟州。○남악이(全南)旌義。

나막신(木履) ○나무개(忠南)禮山。○나무새(忠北)鎮川。

나들(菜) ○너물(全北)任實。南原。井邑。金堤。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。

順天。光陽。突山。麗水。筏橋。羅州。長城。○노물(全南)高興。寶城。長興。海南。木浦。○남새(全北)茂朱。錦山。(全南)光陽。突山。麗水。筏橋。○넘새(全北)全州。任實。南原。井邑。金堤。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。順天○늘새(全南)高興。寶城。

나외(蝶) ○나봉이(慶北)靑松。

내(溪) ○내알(忠南)扶餘。○내야랑(忠南)扶餘○겉(慶北)慶州○거랑(慶北)慶州。

녕이(薺) ○나싱개(忠北)永同。清州。(忠南)禮山。沔川。鴻山。扶餘。江景。公州。

(全南)突山。○나승개(忠南)瑞山。海美。葛山。洪城。靑陽。廣川。保寧。藍浦。扶餘。烏致院。(全北)全部。(全南)玉果。谷城。求禮。木浦。莞島。靈光。咸平。羅

州。長城。○나상이(忠北)鎮川。槐山。忠州。○나생이(全南)高興。筏橋。寶城。(忠南)天安。(慶北)全部。(江原)全部。○나상구(全南)光陽。長興。○나시(全南)海南。(慶北)義城。盈德。(江原)蔚珍。平海。

녀승(女僧) ○신증(忠北)永同。(全北)全州。任實。南原。井邑。茂朱。錦山。(全南)全部。○승당(慶北)醴泉。安東。○싱단이(慶北)尙州。聞慶。咸昌。○싱각시(慶北)義城。興海。浦項。盈德。慶州。

노(繩) ○사버외(忠南)藍浦。

노끈(繩紐) ○노쌍이(忠南)廣川。

노투(獐) ○노리(慶北)安東。慶州。○늘갱이(慶北)慶州。○베외(兒) (全南)旌義。○고란이(獐) (全南)旌義。

늘(霞) ○느리(江原)杆城。○누리(江原)高城。襄陽。注文津。○노오리(忠北)槐山。○나오리(慶北)聞慶。咸昌。榮州。醴泉。安東。青松。義城。○농오리(忠北)永同。○나오랑이(慶北)盈德。○우너(慶北)慶州。

누님(姉) ○눔임(慶北)靑松。○누부(慶北)靑松。慶州。

누에(蠶) ○귀머(忠南)扶餘。○귀(忠南)公州。○누왜(江原)注文津。○눔에(江原)高城。杆城。襄陽。○눔에(江原)注文津。江陵。○니비(慶北)慶州。○니비(慶南)馬山。눈시옥(險) ○눈링이(忠北)永同。鎮川。槐山。忠州。清州。(慶北)尙州。聞慶。咸昌。醴泉。興海。浦項。盈德。○눈령이(慶北)安東。靑松。義城。○눈두부리(慶北)尙州。聞慶。咸昌。醴泉。盈德。

니마(額) ○이매(慶北)大部分。(慶南)蔚山。(江原)平海。○이마박(忠南)扶餘。洪城。(全南)光州。長興。○이매박이(全南)旌義。○이망(全南)筏橋。(慶南)居昌。陝川。昌寧。密陽。東萊。馬山。河東。(江原)高城。杆城。襄陽。○이맹이(全南)旌義。○임대이(全南)濟州。

남사귀(葉) ○임사구(忠北)永同。忠州。清州。(慶北)全部。○임새(忠北)鎮川。槐山。忠州。清州。(忠南)扶餘。公州。○임상이(全南)旌義。○임쌍(全南)長興。○임퍼리(慶北)全部。○섬장귀(全南)旌義。

다(皆) ○모닥(全南)濟州。
 딸기(莓) ○딸(全南)順天。(慶北)安東。興海。(慶南)馬山。○씨알(全南)長興。
 달나(野蒜) ○뽕마늘(全南)濟州。
 달팽이(蝸牛) ○들팽이(慶北)尙州。聞慶。安東。靑松。義城。興海。(江原)襄陽。○달
 평이(忠北)忠州。○들평이(江原)注文津。江陵。○달과니(全北)任實。○무당골뱅이의
 (江原)蔚珍。○하마고뒤이(慶北)浦項。慶州。○금비(江原)平海。○군빙이(慶北)盈德。
 닭알(鷄卵) ○닭사기(全南)濟州。旌義。
 뚫자구리(啄木鳥) ○딱따구리(忠北)全部。(全北)任實。茂朱。錦山。(忠南)扶餘。(慶
 北)大部分。○뚫짜구리(全北)南原。井邑。金堤。(忠南)江景。公州。天安。烏致院。
 ○뚫켜구리(忠南)禮山。沔川。瑞山。海美。葛山。洪城。靑陽。廣川。保寧。藍
 浦。鴻山。○씨앗치(忠南)扶餘。
 머구리(頭) ○머갈박이(忠南)扶餘。○머강이(忠南)扶餘。○머그박(全南)光州。長
 興。덜의(項) ○야개·야가지(全南)濟州。○야각이(全南)旌義。

덤불(藪) ○덤플(忠北)永同。
 덩굴(蔓) ○덩쿨(忠北)鎭川。○닝쿨(忠北)永同。淸州。
 예배(筏) ○러위(全南)濟州。
 도라지(桔梗) ○도랏(全南)木浦。莞島。智島。咸平。○들갓(全南)高興。寶城。長
 興。海南。○들가지(全北)任實。南原。井邑。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。順天。
 光陽。突山。麗水。筏橋。長城。
 도마(俎) ○칼토막(忠南)洪城。○듬배(全南)旌義。濟州。
 도마배암(蟻蟻) ○장갈너비(全南)濟州。
 도미(鯛) ○동치(全南)濟州。
 도야지(猪) ○도삭이(全南)旌義。
 도토리(橡) ○가시(全南)旌義。
 득기(斧) ○도기(慶北)興海。○득구(慶北)尙州。聞慶。咸昌。榮州。醴泉。靑松。
 盈德。(慶南)馬山。(江原)全部。○도키(慶北)榮州。○들치(全北)井邑。金堤。○도치

(忠北)永同。清州。(忠南)全部。(全北)全州。任實。南原。茂朱。錦山。(全南)寶城。旌義。(慶北)尙州。咸昌。榮州。青松。義城。興海。浦項。盈德。慶州。(江原)蔚珍。平海。

돌(石) ○ 돌(忠北)永同。清州。(忠南)全部。(全北)全部。(全南)全部。(慶北)尙州。聞

慶。咸昌。○ 돌(忠南)保寧。○ 돌작(忠南)公州。○ 돌막(忠南)藍浦。扶餘。公州。洪城。

되렁이(蓑) ○ 도랭이(慶北)醴泉。安東。○ 도랭이(忠北)永同。鎮川。槐山。忠州。

清州。○ 도랭이(忠北)永同。(慶北)尙州。聞慶。咸昌。○ 뒤랭이(慶北)青松。

두성(蓋) ○ 두병(全南)寶城。

두루막이(周衣) ○ 후루막이(忠北)鎮川。(忠南)扶餘。○ 후루매(忠南)洪城。

두루미(鶴) ○ 두림(全南)寶城。

두부(豆腐) ○ 둠비(全南)旌義。

두더지(鼯) ○ 두더취(忠南)葛山。鴻山。扶餘。○ 디더기(慶北)尙州。聞慶。咸昌。○

두더기(忠北)槐山。清州。○ 두지기(忠北)永同。(全南)海南。木浦。莞島。智島。靈

光。咸平。○ 뒤케기(全南)光州。玉果。谷城。順天。光陽。(忠南)全部。○ 뒤지기(全

南)求禮。(慶北)青松。義城。浦項。盈德。慶州。○ 두케기(全南)寶城。長興。長城。

○ 두주기(全南)靈光。○ 디케기(慶北)榮州。醴泉。安東。○ 뒤데기(全南)高興。筏橋。

○ 뒤케기(全南)突山。麗水。

뒤안(厠) ○ 소마안(忠南)全部。○ 칩간(全北)全州。任實。南原。井邑。金堤。○ 북안

(全北)全州。任實。井邑。金堤。○ 등수산(忠南)藍浦。鴻山。扶餘。江景。公州。

天安。烏致院。(全北)全部。○ 룡시(全北)任實。(全南)濟州。(慶北)咸昌。○ 등너(慶

北)慶州。

들(庭) ○ 들광(忠南)扶餘。公州。○ 드럭(慶北)聞慶。咸昌。○ 토방(忠南)洪城。○ 이

희(全南)濟州。○ 옥독막(慶北)慶州。

들애(荏胡麻) ○ 유희(全南)濟州。

등(脊) ○ 등더리(全南)麗水。

등외(蛇) ○ 등어(忠北)槐山。忠州。○ 등어(忠北)清州。

석(茅) ○새(全南)濟州。
 마늘(蒜) ○콧대산이(全南)濟州。
 마루(廳) ○마리(忠北)清州。(忠南)扶餘。(慶北)安東。開慶。咸昌。
 마을(村) ○마슬(忠北)清州。○마실(忠北)清州。(全南)大靜。(慶北)開慶。
 망아지(犢) ○망상이(全南)旌義。
 맏들(挽白) ○가래(全南)濟州。
 매아미(蟬) ○재1리(全南)濟州。
 매우(甚) ○무루(全南)濟州。○못시(慶南)馬山。
 맏두리(蝗蝻) ○말죽(全南)濟州。旌義。
 머음(雇) ○머심(忠北)永同。鎮川。槐山。忠州。(忠南)全部。(全北)茂朱。錦山。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。突山。麗水。高興。筏橋。寶城。海南。木浦。莞島。智島。長城。○머슴(全北)全州。任實。南原。○머심(忠北)清州。(全北)井邑。金堤。(全南)長興。(慶北)興海。

먼지(塵) ○탑새기(忠南)洪城。
 며누리(婦) ○며누리(忠南)大部分。(全南)大部分。(慶北)榮州。青松。(江原)大部分。○메느리(慶北)知禮。○메느리(全南)木浦。(慶北)醴泉。興海。浦項。盈德。慶州。(慶南)東萊。蔚山。○미나리(慶北)金泉。(慶南)居昌。○미느리(全南)突山。羅州。長城。(慶北)尙州。開慶。咸昌。安東。義城。知禮。星州。大邱。永川。(慶南)昌寧。密陽。○미나리(慶北)金泉。
 모리(砂) ○모새(忠南)扶餘。○물개(慶北)慶州。
 모밀(蕎麥) ○메를(忠北)全部。(慶北)尙州。開慶。(江原)全部。○메밀(忠南)洪城。○매를(慶北)榮州。醴泉。青松。興海。浦項。盈德。慶州。○미를(慶北)咸昌。安東。義城。
 모이(餌) ○모시(忠北)清州。(忠南)全部。(全北)全部。(全南)寶城。順天。長興。○몹시(慶北)興海。
 모퉁이(隅) ○모래이(忠南)海美。

목침(木枕) ○토막(忠南)扶餘。藍浦、洪城。
 吳(淵) ○등병(慶北)慶州。
 吳(釘) ○말쿠지(忠南)洪城。
 외추라기(鶉) ○매초리(全南)旌義。(慶南)馬山。○매뜰이(全南)寶城。
 吳(大根) ○무수(忠北)永同。鎭川。槐山。忠州。淸州。(忠南)全部。(全北)群山。全州。任實。茂朱。錦山。(全南)光州。谷城。海南。木浦。靈光。咸平。羅州。(慶北)聞慶。咸昌。(江原)蔚珍。平海。○무시(全北)南原。井邑。金堤。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。突山。麗水。高興。筏橋。寶城。長興。莞島。智島。咸平。長城。(慶北)尙州。義城。興海。浦項。盈德。慶州。(慶南)馬山。河東。○무이(江原)注文津。江陵。○무구(慶北)全部。(江原)注文津。江陵。蔚珍。○남비(全南)濟州。○남새(全南)濟州。
 吳(巫) ○여원(全南)旌義。
 吳(膝) ○블막(全北)全州。任實。井邑。金堤。茂朱。(全南)大部分。(慶南)馬山。○

무름막(全南)海南○무름막(全北)錦山○블막(江原)平海○독아니(全南)濟州。
 吳(木綿) ○미명(慶北)聞慶。○미명(忠南)洪城。
 吳(虹) ○황고지(全南)旌義。
 吳(波) ○누(全南)濟州。
 吳(紡車) ○무루러(全南)濟州。
 吳(障子) ○밀창(慶北)聞慶。(全南)濟州。
 吳(芹) ○미나기(全南)濟州○미내기(全南)旌義。
 吳(泥縮) ○밋구라지(忠南)扶餘○밋구럭이(全南)寶城○밋구랭이(慶南)馬山。
 吳(釣餌) ○니검(全南)濟州。
 吳(筐) ○구덕(全南)濟州。
 吳(針) ○쇠우(忠南)洪城。
 吳(海) ○바대(忠南)扶餘。(全北)全部。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。求禮。順天。寶城。長興。海南。靈光。咸平。羅州。長城。○바당(全南)突山。濟州。

○바닷(全南)麗水。高興。海南。木浦。莞島。智島。
 바람잡이(蚊吸鳥) ○핀딩이(忠南)廣川。
 바위(巖) ○바구(全南)順天。○방구(慶南)馬山。
 박아지(匏) ○박사기(全南)濟州。
 박수(靛) ○덕이(全南)旌義。
 박쥐(蝙蝠) ○다람쥐(全南)濟州。
 반디불(螢) ○불환디(全南)旌義。
 방망이(搗衣棒) ○막개(全南)濟州。
 방아공이(杵) ○방악구(全南)寶城。
 배(腹) ○배지(忠南)洪城。
 배암(蛇) ○진대(忠南)洪城。
 버리지(蟲) ○벌거지(忠北)全部。(忠南)扶餘。公州。(全南)長興。(慶北)尙州。聞慶。咸昌。榮州。醴泉。安東。青松。盈德。(慶南)馬山。○벌개(忠南)洪城。○벌기(慶

北)義城。興海。浦項。盈德。○벌갱이(慶北)義城。浦項。盈德。慶州。○버랭이(全南)濟州。
 버즘(癬瘡) ○버듬(忠南)大部分。(全北)群山。全州。金堤。茂朱。錦山。
 번덕아(蛹) ○은득이(全南)寶城。
 벌치(既) ○하마(忠北)忠州。(慶北)醴泉。○필치(全南)長興。○폴치(全南)長興。
 병어리(啞) ○버버리(全北)任實。南原。茂朱。錦山。(全南)全部。(江原)杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚珍。平海。○버부리(慶南)馬山。
 비(稻) ○나락(忠北)永同。清州。(忠南)全部。(全北)全部。(全南)全部。(慶北)全部。(慶南)大部分。(江原)注文津。蔚珍。平海。○나룩(慶北)知禮。(慶南)居昌。○나룩(全南)濟州。
 뼈(骨) ○쌍(全南)旌義。
 비개(枕) ○베개(忠南)扶餘。(全北)全州。(全南)玉果。谷城。求禮。順天。光陽。高興。(江原)高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚珍。平海。○버그(忠南)大部分。○비

개(忠南)江景。(全北)全部。(全南)光州。突山。麗水。高興。筏橋。寶城。長興。海南。木浦。莞島。智島。靈光。咸平。羅州。長城。
비락(霹靂) ○비락(忠北)永同。鎮川。槐山。忠州。清州。(忠南)全部。(全北)全部。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。高興。筏橋。寶城。長興。木浦。靈光。咸平。羅州。長城。(慶北)尙州。青松。○비락(全南)突山。麗水。(慶北)尙州。開慶。咸昌。○비락(全南)海南。莞島。(慶北)榮州。醴泉。安東。義城。興海。浦項。盈德。慶州。

비호(蚤) ○비호(忠北)永同。槐山。(全南)寶城。(慶南)居昌。陝川。○비호(忠北)鎮川。忠州。清州(忠南)扶餘(全南)光州。玉果。谷城。求禮。麗水。長興。羅州。(慶北)青松。○비릭(全南)順天。光陽。高興。筏橋。○비릭이(江原)全部。○비릭(全北)金泉。知禮。星州。永川(慶南)昌寧。密陽。○비릭(慶南)光州。咸平。羅州。長城。○비릭(全南)突山(慶北)尙州。開慶。咸昌。○비릭(慶北)大邱。○비릭이(慶北)安東。義城。○비릭(慶南)東萊。蔚山。○비릭(全南)海南。木浦。莞島。智島。○비릭(慶北)醴泉。

○비릭이(慶北)榮州。興海。浦項。盈德。慶州。

비루(硯) ○비루(忠北)永同。鎮川。槐山。忠州。清州。(忠南)禮山。瑞山。葛山。洪城。青陽。廣川。保寧。藍浦。鴻山。扶餘。江景。公州。天安。烏致院。(全北)全部。(全南)光州。玉果。谷城。麗水。筏橋。寶城。長興。靈光。咸平。羅州。(慶北)青松。(江原)高城。杆城。襄陽。江陵。○비리(全南)求禮。光陽。高興。濟州。(慶北)安東。(慶南)馬山。(江原)注文津。蔚珍。平海。○비리(全南)順天。○비리(全南)突山。(慶北)安東。義城。○비루(全南)長城(慶北)尙州。開慶。咸昌。○비루(全南)海南。木浦。莞島。智島。○비루(慶北)榮州。○비리(慶北)醴泉。興海。浦項。盈德。慶州。

비슬(位) ○비슬(忠北)永同。鎮川。槐山。忠州。清州(慶北)青松(慶南)陝川(江原)高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚珍。平海。○비슬(慶南)居昌。○비슬(慶北)尙州。開慶。咸昌。醴泉。安東。義城。星州。永川。大邱(慶南)昌寧。密陽。○비슬(慶北)金泉。知禮。○비슬(慶北)榮州。興海。浦項。盈德。慶州(慶南)東萊。

별(星) ○별(全南)玉果。谷城。求禮。順天。光陽。麗水。筏橋。濟州(慶北)金泉。知禮(慶南)居昌。陝川(江原)平海○빌(忠北)永同。鎮川。槐山。忠州。清州(忠南)全部。(全北)全州。井邑。金堤。茂朱(全南)光州。突山。高興。寶城。長興。海南。木浦。莞島。智島。咸昌。羅州。長城(慶北)大部分。(慶南)昌寧。密陽(江原)高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚珍○벌(慶北)慶州(慶南)東萊。蔚山。벗(陽) ○벗(忠南)全部。(全北)全部。(慶北)青松。(江原)高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚珍。平海。○빛(慶北)尙州。聞慶。咸昌。安東。○땃(慶北)榮州。興海。浦項。盈德。慶州。永川。(慶南)東萊。蔚山。
 병아리(雛) ○새가리(慶南)馬山○비악기(全南)濟州。旌義○새끼이(慶北)慶州。보신(襪) ○버신(全北)全部。○버신(全北)井邑。○보신(全南)光州。玉果。求禮。順天。光陽。突山。麗水。高興。筏橋。寶城。長興。木浦。莞島。智島。咸平。羅州。長城。○보손(全南)突山。○보순(全南)長興。海南。
 복사씨(踝) 귀마리(全南)濟州。

복송아(桃) ○복상(忠南)扶餘。(慶北)聞慶。青松。○복칭(全南)谷城。長城。(慶北)青松。○복송(全南)寶城。
 봉우리(峯) ○봉도리(忠北)永同。鎮川。槐山。忠州。清州。(忠南)禮山。沔川。廣川。(全北)茂朱。錦山。(慶北)尙州。聞慶。○봉두리(忠南)瑞山。海美。葛山。洪城。青陽。保寧。藍浦。扶餘。公州。烏致院。(慶北)大部分。○산말리(慶北)慶州。○산말남이(慶北)慶州。
 석리(根) ○석력지(忠南)扶餘。公州。○석리기(忠南)扶餘。江景。○석령이(忠南)禮山。葛山。鴻山。公州。天安。烏致院。○석령이(全北)任實。全州。南原。井邑。金堤。錦山。○석령구(全北)井邑。金堤。○석령이(全北)茂朱。○등키이(全南)旌義。○덕키이(全南)旌義。
 부삽(火匙) ○부솔(全南)濟州。○불가래(慶北)興海。○불갈래(全南)濟州。
 부스럼(腫) ○부슬떡(全北)全州。○부실떡(全北)任實。南原。井邑。金堤。茂朱。錦山。

부역(厨) ○부석(全北)全部。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。順天。光陽。突山。
 麗水。咸平。長城。(慶北)聞慶。咸昌。○부삭(全南)光州。高興。筏橋。寶城。海南。
 ○부삼(全南)羅州。寶城。○부삼(全南)長興。木浦。莞島。智島。
 부화(肺) ○부애(全北)井邑。金堤。茂朱。(江原)杆城。襄陽。注文津。江陵。○허과
 (忠北)鎮川。槐山。忠州。清州。○허과(忠北)永同。(全北)全部。(全南)求禮。順天。
 光陽。突山。麗水。高興。筏橋。寶城。長興。木浦。莞島。智島。(慶北)大部分。○
 허과(江原)高城。蔚珍。平海。○북부기(全南)旌義。
 비(筭) ○비차락(忠南)扶餘。瑞山。洪城。(全南)麗水。○비차리(全北)錦山。(慶北)
 浦項。(慶南)馬山。河東。○비차루(全北)茂朱。○비자로(慶北)慶州。○비외락(忠
 南)扶餘。(全北)全州。任實。南原。井邑。金堤。(全南)玉果。寶城。光州。順天。
 長興。○비지리(慶北)慶州。
 비녀(簪) ○비네(全南)寶城。○비나(忠北)鎮川。槐山。忠州。清州(忠南)瑞山。○비
 너(忠北)永同。(全北)全部。(全南)玉果。光州。(慶北)全部。(慶南)馬山。河東。

비누(石鹼) ○빈옥(慶南)馬山。
 사나히(男) ○머스매(忠南)洪城。(慶北)慶州。○머시마(全北)任實。○머시매(全
 南)谷城。○머시매(慶北)咸昌。
 사리문(柴門) ○삼작(忠北)永同。槐山。清州。忠州。
 산(山) ○오름(全南)濟州。
 삶는다(煮) ○삶는다(忠南)公州。(全南)順天。
 삼지(煙草入) ○쌔이(忠北)清州。(慶北)靑松。
 샷기(索) ○산낫기(忠南)洪城。○새벽기(全南)玉果。長興。○삿챙이(全南)玉果。
 상취(芎蒿) ○부루(全南)濟州。
 새(鳥) ○상이(全南)旌義。
 새벽(曉) 새벽(忠南)瑞山。廣川。保寧。藍浦。鴻山。扶餘。江景。公州。天安。
 (全北)任實。南原。井邑。金堤。茂朱。錦山(慶北)醴泉。永川(江原)杆城。襄陽。
 注文津。江陵。蔚珍。平海。○새복(全南)麗水。○새복(慶北)尙州。咸昌。興海。浦

項。盈德。慶州。大邱○새박(慶北)安東。青松。義城(江原)高城○새백(慶北)盈德○새배(慶北)興海。浦項○새베(慶南)昌寧○새비(慶南)密陽。
 새우(蝦) ○새우(江原)襄陽。注文津。江陵。○새옹개(全北)金堤。○새비(全北)任實。南原。井邑。金堤。(全南)全部。(江原)高城。杆城。○새방이(忠北)全部。○새봉개(全北)茂朱。錦山。○새바우(慶北)醴泉。○새비(慶北)義城。興海。浦項。盈德。慶州。○새(慶北)浦項。盈德。慶州。
 싱강(生薑) ○시양(忠北)淸州。
 씨외래(椽) ○서리(全南)濟州。
 설함(引出) ○새다지(全南)寶城。
 침(柴) ○검질(全南)旌義。
 소나무(松樹) ○솔나무(忠南)公州。(全南)玉果。寶城。順天。長興。
 소낙이(驟雨) ○쓰낙이(忠南)扶餘。(全南)寶城。順天○소냉이(慶北)青松。慶州。
 소라(螺) ○구경기(全南)旌義。濟州。○뛰고뛰이(慶北)興海。慶州。

손톱(爪) ○손콰(全南)濟州。
 솔개(鳶) ○소리개(全北)全州。錦山。○솔갱이(全北)任實。南原。井邑。茂朱。錦山。(全南)長興。(慶南)馬山。○솔개미(忠北)鎭川。○소룩이(全南)旌義。○솔방이(慶北)青松。○호리개(全北)金堤。
 송아지(犢) ○송아치(忠南)扶餘。○송아기(全南)濟州。
 수수(黍) ○대죽(全南)濟州。
 수외락(匙) ○수알(忠北)全部。○술(慶北)義城。興海。浦項。盈德。慶州。
 습(藪) ○고지(全南)旌義。
 숯(炭) ○숯옹(慶北)浦項。○숯정(慶北)青松。
 숯(雄) ○술(全北)全州。任實。南原。金堤。○쌀(全南)筏橋。
 씨(種子) ○씨앗(忠南)扶餘。○씨가시(忠南)扶餘。
 시렁(棚) ○실경(忠北)全部。(忠南)沔川。洪城。廣川。藍浦。公州。天安。鳥致院。
 (慶北)大部分。(江原)高城。杆城。襄陽。○실강(慶北)聞慶。○실광(慶北)盈德。(江

原(平海)。○실형(江原)注文津。江陵。蔚珍。

아가의(棠) ○아구배(忠南)扶餘。公州。○아가배(忠南)禮山。沔川。瑞山。海美。葛山。

天安。○아구배(忠南)扶餘。公州。○아가배(忠南)禮山。沔川。瑞山。海美。葛山。

洪城。青陽。廣川。保寧。藍浦。鴻山。(慶北)聞慶。青松。興海。慶州。○아고배(忠

南)天安。○아가우(慶北)尙州。醴泉。安東。義城。○아구(慶北)慶州。○팍배(忠北)

忠州。

아궁이(焚口) ○구락장이(忠南)瑞山。

아니(不) ○엔·엔(慶北)慶州。浦項。(만되었소간엔덧소, 아니을 시다를엔이시더といふ類)

아버지(父) ○아바(慶北)慶州。浦項。○아배(慶北)醴泉。青松。咸昌。○아방(全南)

濟州。旌義。

아우(弟) ○아시(全南)旌義。濟州。

아지랑이(靄) ○아시랑이(忠南)大部分。

야(「こそ」の義を有する助詞) ○사(慶北)慶州(가사하갓다, 보아사 하갓다의如くいふ)。

어머니(母) ○엄마(慶北)咸昌。浦項。慶州。○어매(慶北)醴泉。青松。咸昌。○어멍

(全南)濟州。旌義。○어뽕이(慶北)青松。

어외(速) ○엇석(慶北)青松。慶州。

언덕(丘) ○어덕(忠北)清州。○엉덕(慶北)興海。浦項。○영덕(全南)濟州。旌義。

언칭이(缺唇) ○썌부(慶南)馬山。

엇개(肩) ○언개(慶北)浦項。慶州。○엇개(慶南)陝川。○잇개(慶南)昌寧。○억개(全

南)旌義。○액기(慶北)榮州。醴泉。○익기(慶北)安東。○악개(慶北)義城。

여을(灘) ○여들(江原)高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚珍。

여호(狐) ○여허(慶北)醴泉。榮州。義城。興海。浦項。盈德。慶州。○여수(忠北)

永同。鎮川。清州。(忠南)全部。(全北)金堤。茂朱。錦山。(全南)順天。光陽。突山。

麗水。高興。筏橋。寶城。長興。(慶南)河東。○여시(全北)全州。任實。南原。井邑。

金堤。(全南)光州。玉果。谷城。求禮。長興。海南。木浦。莞島。智島。靈光。咸

平。羅州。長城。(慶北)尙州。○야시(慶北)尙州。咸昌。○야수(慶北)聞慶。○애수(慶

北) 安東。青松。義城。(江原)蔚珍。平海○미수(慶北)興海。浦項。盈德。慶州。○
옛기(慶北)醴泉。安東。青松。○얏팡이(慶北)醴泉。榮州。○얏개이(慶北)開慶。咸
昌○옛개이(江原)蔚珍○옛개(江原)蔚珍。平海○명개이(江原)注文津。江陵○명
우(江原)杆城。襄陽。江陵。

미○(然り) ○양(全南)濟州。

오○리○(鴨) ○을기(慶北)慶州。

오○얏○(李) ○오엣(慶北)興海。盈德。○엣(慶北)浦項。慶州。○옹아(忠北)槐山。清州。

○옹애(慶北)尙州。○왜(江原)注文津。江陵。蔚珍。
을아버니(兄) ○을배(慶北)咸昌。○을애배(慶北)青松。咸昌。○을바시(慶北)青松。

咸昌。

옷(衣) ○남청(忠南)扶餘。

외양간(廐) ○웁간(忠北)清州。

원(左) 원○(慶北)興海。浦項。盈德。慶州○원(慶北)聞慶。青松(江原)平海○원

(慶北)咸昌。榮州。醴泉。安東。義城。○에(慶北)尙州○의약(全北)全部。(全南)光
州。玉果。谷城。木浦。莞島。智島。靈光。咸平。羅州。長城。○오약(忠南)鴻山。

江景。○오엣(忠南)洪城。青陽。廣川。保寧。藍浦。扶餘。公州。

우렁이(田螺)○을벵이(忠北)清州。

우물(井) ○새암(忠南)洪城。(全北)任實。(全南)寶城。長興。○셈(忠南)扶餘。瑞山。

洪城。(慶北)咸昌。○셈이(慶北)慶州。(慶南)馬山。○시암(忠南)公州。○웅골(慶

北)浦項。青松。慶州。

우윙(牛蒡) ○우붕(全南)寶城。(慶南)馬山。

을라리(籬) ○을다리(忠北)清州。

웨(何故) ○무사(全南)濟州。旌義。

을(助詞、を) ○로(慶北)慶州。浦項。青松。(을을 먹는다를을을)
로 먹는다といふ)

이것저것(此物彼物) ○요아조아(忠南)海美。○유와좌(忠南)瑞山。

이리(比) ○이영(全南)濟州。

임철(唇) ○임솔(忠北)永同。鎭川。槐山。忠州。清州(全南)光州。玉果。谷城。突山。莞島。智島。靈光○임소리(全南)求禮。順天。光陽。麗水(慶南)馬山○임소리(全南)高興。筏橋○임수부리(慶北)尙州。聞慶。咸昌。慶州。임수불(慶北)青松(江原)蔚珍。平海○임서불(慶北)義城。興海。浦項○임서버리(慶北)盈德。慶州○임슬(慶北)榮州。醴泉。安東(江原)注文津。江陵○임슬기(江原)高城。杆城。襄陽。注文津○임수철(江原)蔚珍。

자(尺) ○재(全南)順天。(慶南)河東。○자족(全南)長興。○자막대(忠南)扶餘。자가사리(黃額魚) ○차가사리(忠北)清州。

자루(柄) ○자락(全南)濟州。○찰기(江原)杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚珍。작구(頻) ○대구(忠南)公州。○다이구(忠南)海美。

잠을쇠(鎖) ○릉쇠(全南)濟州。旌義。잠자리(蜻蛉) ○자마리(忠北)永同(忠南)扶餘○남자리(忠北)永同。槐山。忠州。清州(慶北)尙州。聞慶。咸昌。醴泉○남아리(忠北)槐山。忠州。清州○찰기(江

原)平海○차랭이(江原)蔚珍○칠개의(慶北)興海。浦項。盈德○칠기(慶北)興海(慶南)馬山(江原)平海○철이(慶北)浦項。慶州○칠니뽕이(慶北)慶州○초리(慶北)榮州○칠개의(慶北)青松○칠넝이(慶北)義城○소곰쟁이(江原)高城。杆城。襄陽。注文津○아랭이(慶北)尙州。咸昌○어러리(慶北)安東○밤버리(全南)濟州。재(灰) ○불치(全南)旌義。○불성(全南)旌義。

장작(薪) ○지들남(全南)濟州。키라락(箸) ○키범(忠南)扶餘。瑞山。(全北)茂朱。(全南)長興。海南。○키불(忠南)大部分。(全北)全州。任實。南原。井邑。金堤。錦山。(全南)光州。谷城。木浦。莞島。智島。靈光。咸平。羅州。長城。(慶北)咸昌。○키범(全南)筏橋。○키불(全南)求禮。順天。○키금(全南)玉果。谷城。키고리(上衣) ○덤지(全南)長興。○둠방에(全南)長興。키덕(夕) ○케덕(忠北)槐山。忠州。○키덕(慶北)盈德。慶州。○킵(慶北)榮州。○지낙(江原)高城。杆城。○지덕(慶北)尙州。聞慶。咸昌。榮州。醴泉。安東。青松。義

城。金泉。知禮。(慶南)陝川。昌寧。密陽。東萊。蔚山。○지덕(慶北)義城。興海。浦項。

커리(彼樣) ○커령(全南)濟州。

적다(少) ○속다(慶北)青松。

칠구릉(白) ○도구릉(忠南)扶餘。(全北)任實。(全南)寶城。(慶南)馬山。○도구령

(全南)麗水。高興。

칭갱이(向脛) ○시무니(全南)濟州。

조(粟) ○시속(忠南)洪城。(全南)玉果。寶城。(慶北)開慶。(慶南)河東。

조개(蛤) ○조감지(慶北)開慶。○조갱이(全南)濟州。

조공(少量) ○조예(全南)谷城。○조쇄(全南)筏橋。

조리(笊) ○조래(慶北)興海。盈德。慶州。(慶南)河東。○조랭이(忠北)槐山。忠州。

清州。(忠南)扶餘。公州。洪城。○조러미(忠北)鎮川。

조희(紙) ○죄(忠南)瑞山。

족적개(毛拔) ○킵적개(全南)濟州。

주걱(杓子) ○바자(全南)濟州。

주머니(囊) ○주먼지(忠南)扶餘。公州。○주먼치(全南)順天。○주미(慶北)慶州。

줄기(莖) ○댕갈이(全南)旌義。○말구리(全南)旌義。

쥐(鼠) ○쥐이(全南)旌義。濟州。

지네(蜈蚣) ○지남이(全南)旌義。

지느러미(鰭) ○날감지(忠南)扶餘。

지렁이(蚯蚓) ○지렁이(江原)全部。○슬갱이(慶北)咸昌。○개우리(全南)濟州。○

개우리(全南)旌義。

집맨다(耘) ○지심맨다(忠北)永同。清州。(忠南)全部。(全南)全部。(江原)注文津。

江陵。蔚珍。平海。

집신(草鞋) ○집척(忠南)瑞山。○집색이(忠北)清州。(忠南)扶餘。

참외(眞瓜) ○참외(忠南)保寧。藍浦。(慶北)榮州。安東。青松。義城。興海。浦項

盈德。聞慶。○참외(慶北)安東。慶州。○참외(江原)平海。○참외(忠北)忠州。(忠南)扶餘。鴻山。江景。(全北)錦山。(慶北)醴泉。○참이(忠北)鎮川。槐山。清州。(忠南)扶餘。公州。天安。鳥致院。(慶北)尙州。聞慶。咸昌。

○치(節) ○치(全南)海南。木浦。莞島。智島。長興。○치(全南)突山。羅州。長城。○칠아(檐下) ○집지실(全南)濟州。

○치마(裳) ○치매(全南)玉東。寶城。光州。濟州。(慶南)河東。○치매(慶北)慶州。○초마(忠南)扶餘。瑞山。○초매(全南)長興。

○컨다(挽) ○컨다(忠北)清州。(忠南)扶餘。洪城。(全南)寶城。順天。(慶北)青松。(慶南)馬山。

○키(柀) ○키(忠北)永同。鎮川。槐山。清州。(慶北)尙州。聞慶。咸昌。○키목(慶北)浦項。盈德。慶州。○키(忠北)忠州。

○키(箕) ○키(忠北)鎮川。槐山。忠州。清州(忠南)全部(全北)全州。井邑。金堤。茂朱。錦山(全南)光州。海南。木浦。莞島。智島。靈光。咸平。羅州。長城(慶

北)榮州。安東(江原)高城。杆城。襄陽。注文津。江陵。蔚珍○칭이(全南)突山(慶北)尙州。聞慶。咸昌。安東。興海。浦項。星州○치(慶南)居昌○체가(忠北)永同(全北)茂朱(全南)玉果。谷城。求禮。順天。光陽。麗水。長興。寶城(慶北)聞慶(慶南)馬山。河東○체가(全北)任實。南原(慶北)醴泉。青松。義城。興海。浦項。盈德。慶州。金泉。知禮。永川。大邱(慶南)陝川。昌寧。密陽。東萊。蔚山(江原)蔚珍。平海○푸는치(全南)濟州。

○라구(唾吐) ○라우(全南)濟州。

○릭(領) ○릭(全南)寶城。麗水(慶南)馬山○릭(慶北)慶州○릭즉박이(忠南)扶餘。○릭(毛) ○릭릭(忠南)扶餘。洪城(慶北)尙州○릭릭기(慶北)青松○릭릭기(慶北)醴泉。安東○릭릭기(慶北)興海。義城。浦項。盈德。慶州○릭구지(忠南)洪城。

○로외(兔) ○로깁이(慶北)浦項。○로깁이(全南)玉果。

○로수(吐手) ○로시(慶北)安東。聞慶。慶州。(慶南)河東。○손노매(全南)濟州。

○파(葱) ○파(慶北)興海。浦項。慶州。永川。(慶南)居昌。河東。○파우(慶北)盈德。○

과마늘(全南)濟州。○과마늘(全南)濟州。旌義。
 팔(腕) ○팔디기(慶北)靑松。
 팽(獨樂) ○팽등이(慶北)開慶。
 포기(株) ○페기(全北)金堤。茂朱。○피기(全北)全部。
 폭풍(暴風) ○독궁이(全南)旌義。
 하로사리(蟬蛻) ○누네누니(全南)濟州。
 할머니(祖母) ○할미(全北)咸昌。○할맹이(慶北)慶州。○할매씨(慶北)咸昌。○함
 새(全南)麗水。谷城。○할멍(慶南)濟州。
 할아버지(祖父) ○할배(慶北)咸昌。慶州。○할부지(慶北)咸昌。○할아배(慶北)咸
 昌。할배씨(慶北)咸昌。○할밤(慶北)慶州。○할맹이(慶北)慶州。○하네(全南)長
 興。○한아씨(全南)麗水。○하르방(全南)濟州。
 항라(杭羅) ○항라(忠北)全部。(慶北)安東。興海。浦項。盈德。慶州。
 허리(腰) ○즈등이(全南)旌義。

허리의(帶) ○허리쌍(慶北)開慶。○꺼리의(忠南)禮山。扶餘。○괴알이(忠南)廣川。
 혀(舌) ○해(慶北)榮州。興海。安東。○쇠(忠南)全部。(全北)全州。井邑。金堤(全
 南)光州。玉果。谷城。靈光。咸平。羅州。長城。濟州(慶北)安東。○세(忠北)永
 同。鎮川。忠州。清州(忠南)扶餘。鴻山(全北)任實。南原。茂朱。錦山(慶北)開
 慶。金泉(慶南)居昌。密陽。馬山。河東(江原)高城。杆城。襄陽。注文津。江陵
 蔚珍。平海。○세(全南)求禮。順天。麗水。高興。筏橋。寶城。長興。海南(慶南)
 陝川。○세바다(忠南)扶餘。○세사다(全南)旌義。○새(全南)木浦。莞島。智島(慶北)
 醴泉。義城。興海。浦項。盈德。慶州。星州。永川。大邱(慶南)東萊。蔚山。○시
 (慶北)尙州。咸昌(慶南)昌寧。○씨(全南)突山。○쇠(慶北)知禮。
 호미(鋤) ○호맹이(忠北)鎮川。槐山。忠州。清州(全南)玉果。寶城(慶北)大部分
 혼자(獨) ○혼차(忠南)扶餘。
 홀아비(鰥) ○호불아비(慶北)慶州。
 화로(爐) ○화리(忠北)全部。(全南)玉果。(慶北)全部。

第四編 参考論文

一、新羅語と慶尙北道方言

慶尙南北道は新羅の故地であつて、該地方には今尙ほ千餘年前の古語を存すことはよく世人のいふ所である。余は余の見る所に従つて該地方の方言を観察し、同學者の批評と示教とを仰ぎたいと思ふ。

慶尙南北道は新羅以前三韓時代に於ては大體弁韓・辰韓に屬した。弁韓の言語に關しては「魏志東夷傳」中に

「弁韓は辰韓と雜居し、亦城郭あり、衣服居處辰韓と同じ。言語法俗相似たり。云々」

とて弁韓は辰韓語と相似たるものあることを述べて居るが、「後漢書」には

「弁辰は辰韓と雜居し、城郭衣服皆同じく言語風俗異なるあり、其の國倭に近し。故に文身する者あり。云々」

とて兩語の間に差異の存して居ることを述べて居る。

又辰韓の語に關しては同じく「魏志東夷傳」中に

「其の耆老世々傳へていふ、古の亡人秦[○]役[○]を[○]避[○]け[○]て[○]韓[○]國[○]に[○]來[○]る[○]。馬韓其の東界の地を割いて之に與ふ。城柵あり。其の言語馬韓と同じからず、國を名けて邦とし、弓を弧とし、賊を寇とし、行酒を行觴とし、相呼ぶに皆徒とし、秦人に似たるあり云々」

とて辰韓語の秦語即ち支那語と相似たるものあるを論じてあるが、朝鮮の古書中にも此の説に従ひ、

「辰韓の耆老自ら言ふ。秦の亡人苦役を避けて韓國に來る。馬韓其の東界の地を割いて之に與ふ。言語秦人に類するあり、或は之を秦韓といふ。云々」(東史綱目)

「慶州は古辰韓の墟なり。言語風習頗る中國に類す。云々」(星湖僊說)

などの如く述べて居るものも少くない。併しながら吾人は辰韓語と支那語との間に密接なる系統的關係の存したものであらうといふことはどうしても信せられぬ。國

を邦といひ弓を弧といふが如き比較は決して兩者の類似を説明する有力なる資料とはならぬのである。恐らくは秦の亡人投來の説に惑はされ、且つまた秦辰同音の故を以て兩語の間に關係を求めたものであらう。

要するに馬韓語といひ、弁韓語といひ、辰韓語といひ、從來其の間の系統的關係の有無に就き論せられたものがあつたにせよ、吾人は此等の言語は最も密接なる關係の間にあり、互に方言的性質を有して居たものと信するのである。語學上の考察の幼稚であつた昔時の人々が、方言的關係に立てる兩言語を全然別箇の言語として取扱ひ、又全然別種たるべき兩種の言語を同一系統の言語と見做した類は、吾人の屢々語學史上に於て見る所である。

次に新羅語とは何であるかといふに、三國對立時代及び半島統一以後の新羅國の言語を指すものであることは勿論である。而して新羅の言語は國運の發展に伴ひ漸次半島内に行はれた各種の言語を抱容し、可なり完全な一國語を形成するに至つたけれども、其の根本をなす主要なる成分は新羅發祥の故地慶州地方に行はれた言語に

基礎を置いたのである。つまり新羅語は其の淵源を半島南部に求め得ると同時に、前述せる辰韓語の後を承け、又弁韓馬韓等の言語と最も密接なる關係を有して居たものと見ることが出来るのである。而して新羅の半島を統一するや、其の勢力國內に普く、次いで興起せる高麗及び李氏朝鮮も大體に於て新羅の地を繼承したので、高麗及び李朝時代の朝鮮語なるものも大部分新羅語の直接の系統を引いたものといはねばならぬ。朝鮮語に於ける新羅語の價值は正に印度歐羅巴語族に於けるサンスクリットと對比すべきものであらう。

新羅語！何といふ優しい美しい名であらう。古人は自分の言語の傳統を明かにし、自分の祖先の文化を知らんとして、幾人もなく新羅の言語の研究に没頭した。「尼師今」とは何であるか、「居西干」とは何であるか、「麻立干」とは何であるか、「徐那伐」「健牟羅」とは何であるか、數へ來れば其の數極めて多數に達し、中には其の意義の解決せられたものもあり、又懸案のまゝ後世學者の攻究を待つものも少くない。吾人が此等の言語に對する故人の學說を紹介し、且つまた吾人の卑見を陳述して識

者の高教を仰ぐことは、學問上極めて重大にして意義ある事柄ではあるが、問題が餘りに廣汎に亘り、本篇の趣旨に合せぬ虞があるから、茲では單に今日方言として存するものの中、新羅時代乃至其の言語にして古語の系統を引けるものと認むべき若干の語彙に就き説明を加へようと思ふ。

慶尙道方言に關し、古人にして觀察を下したものが一二無いではない。正祖朝の學者李德懋の著はせる「靑莊館全書」中「新羅方言」と題して

「官長と爲り、能く方言に習はば俗情に通ずべし。余初め尙州に到りし時吏隸の言解すべからず。蓋し新羅方言なり。余の言吏隸亦曉る能はず、事謬錯多し。幾くもなく余方言に習熟し、遂に方言を以て民に臨む。嘗て糴を收めて倉に納む。余試みに官隸に分付して曰く、居○穉○完○からざれば羅○洛○必ず漏る。請○以○を以て簸○颺○して然る後に沙○暢○歸○を堅く縛り、丁○支○間○に納めよと。適ま京客坐に在り、口を掩うて笑つて曰く、是れ何の語ぞと。余一一釋訓して曰く、居○穉○は苦なり、羅○洛○は稻なり、請○伊○は箕なり、沙○暢○歸○は藁索なり、丁○支○間○は庫なりと。」

とあるが如きは其の一例である。蓋し茲にある居穉(音キチ、今京城地)羅洛(音ナク、慶尙道地方ではナクといふ)請伊(音チイ、京城地方では箕をチといふが、チイは其の轉訛で)沙暢歸(音サチウ、此の語未詳)丁支(音チヂ、今日京城地方ではチヂといふが、チヂは其の轉訛で)間(音マ、今日京城地方ではマといふが、マは其の轉訛で)等(音トウ、今日京城地方ではトウといふが、トウは其の轉訛で)の語は當時の慶尙方言を寫したものである。余は此の例に倣ひ慶尙道方言中の特種なる單語若干を擧げて説明を加へ、更に語法上の隠れた現象に就き觀察を與へ、以て該方言が朝鮮語の古形を傳へ、由來する所亦極めて悠久なるもの存することを明かにしたいと思ふ。

○가신애(女兒) 俗説に嫁僧兒の義、新羅時代女兒は必ず一度假嫁の風習あつたことより起つたといはれて居るが當にならぬ。「盎葉記」(李德懋)には此の語の起原を説いて

「假斯兒 金史后妃傳に海陵の時諸妃位皆侍女をして男子の衣冠を服せしむるを以て假斯兒と號す。我が國方言男子を稱して斯那海と爲す。蓋し斯は新にして新羅を斯盧と稱するが如し。陽城李氏祖先に那海を以て名と爲すものあり。慶尙道女を稱して假斯那海といふ。金人我が國と界を接す。方言或は相同じきもの有らん。假斯兒と假斯那海とは其の音訓相近し。」

とて金語と語原を同じうするものならざるかを論じて居るが、これまた研究を要する。睿宗實錄元年の條に「稱李爲咸陽加氏」とある文の註に「俗號姬妾爲加氏」とある加氏(가시)の如きも此の語と關係あるものではなからうか。

○나락(稻) 中部朝鮮以北には通用せられぬ語である。李德懋の「青莊館全書」にも「羅洛者稻也」と註してある。此の語の原義に關しては「東寰錄」に「今嶺南湖南人謂稻曰羅祿、或云新羅廩百官用稻代米故云」と説いてある。

○기울(鵝) 기의(鵝)を嶺南の多くの地方では기우・기우などいふが、浦項附近では之を기을といふ。「三國史記」地理志巨濟郡鵝州縣の條に「鵝州縣本巨老縣、景德王改名今因之」

とあるが、巨老は音기로で鵝の訓に當るものなるべく、方言の기을は蓋し當時の古語を傳へたものであらう。

○결·거렁(細流) 「細流の水」を결물ともいふ。慶州・義城地方に於て聴取した。「三

國史記」地理志松岳郡江陰縣の條に

「江陰縣本高句麗屈押縣、景德王改名今因之」

とある屈(音キ)は江に當る語、又古訓に江・河・湖等をマ람といへるも屈に當る語で、嶺南方言の屈は此等の古語を傳へたものといふことが出來よう。蒙古語の果勒(川)も之と關係ある語であらう。

○현다(火を點す) 京城地方では普通に현다といへど、慶州青松地方で현다又は현다(현다의轉)といふのを耳にした。これは古書に

燃은 불현 시라(月印千江之曲諺解)

燈하 불고 들 잇스오며(然燈續明)(法華經諺解)

等とある古語を傳へたものである。

○작다(小さい) 京城地方では작다といふが、慶北青松地方では작다といふ。これは古書に

작다 官吏 들 하(小吏)(杜詩諺解)

작다 盤을 스수라(拭小盤)(同前)

とある작다なる語の轉訛したものである。「鷄林類事」に「小曰胡根」などある「胡根」も此の語に當るのである。

○京城地方で普通に「○」で書き表はされる語が慶尙方言では「△」で現はれることが多い。

(京城)

(方言)

겨울(冬)……키실(興海、浦項、盈德、慶州)

구름(槽)……구시(尙州、開慶)

남이(薺)……나시(義城、盈德)나생이(其の他の地方)

여우(狐)……여시(尙州)야시(尙州、咸昌)야수(開慶)애수(安東、青松、義城)

예수(興海、浦項、盈德)

무우(菁)……무시(尙州、義城、興海、浦項、盈德、慶州)무수(開慶、咸昌)

가위(缺)……가새(尙州、開慶、咸昌、榮州、醴泉、安東、青松)가시개(義城、

興海、浦項、盈徳、慶州

これは他道にも存する現象であるが、古く之を溯る時は、此等の「人」は以前に「△」なる諺文を以て書き表はされたもので、古語の面影を傳へたものである。

以上は數箇の重なる單語に就き説明を試みたものであるが、吾人がそれ以上注意せねばならぬことは語法上の特質の研究である。由來方言の研究としいへば多くの人々から單に珍奇なる語彙を多數に蒐集する事業の如く考へられて居るが、そのみでは完全でない。吾人は方言の特質は助詞・動詞等の連結上に存する語法上の約束に存することも決して少なからざることを信するのである。故に余は茲に筆を改めて慶尙北道方言の語法的特質を研究して見ようと思ふ。

○로 「술을 먹는다」(酒を飲む)を或る地方(靑松、浦項、慶州等)では술로 먹는다といひ、「나를 친다」(私を撃つ)を或る地方(慶州)では「날로 친다」といふ如く、을又は를を로と轉呼することがある。咸鏡南北道の一部では「술을 먹는다」を「술으 먹는다」、「나를 친다」を「나르 친다」といふが、此等は本條の로の使用法と系統を同じうするものである。

○京城地方で「고아씨」(美く)「추워서」(寒く)「더워서」(暑く)「매워서」(辛く)といふのを、慶尙北道の大部分に於ては「고바씨」「추바씨」「더바씨」「매바씨」の如く、아・위等を바・버の如く日に変じてしまふ。

(京城)

(方言)

- 고아씨(美く) …… 고바씨(尙州、咸昌、安東、靑松、義城)
- 추워서(寒く) …… 추바씨(興海、浦項、盈徳、慶州)
- 더워서(暑く) …… 더바씨(咸興、醴泉、安東、靑松、義城)
- 매워서(辛く) …… 매바씨(興海、浦項、盈徳、慶州)

右の變化は他道にも存する現象であるが、決して偶發的のものでない。此の種の活用語に아(위)又は日であらはれる部分は、古い諺文の綴字法ではすべてㅁ을を以て書き表はされて居るのである。然らばㅁの音價は如何といふに今茲に之を詳述する邊が無いが、要するにW類似の音であつたのである。今日それが아・위であらはれるのはwを發音する場合の唇の緊張が稍々弛緩したに過ぎぬのである。

○京城地方で「나야외」(勝れ)「외야외」(啄ん)といふのを慶尙北道の一地方に於ては「나외」(外)の如く、야を야の如く變ずる。

(京城)

(方言)

나야외(勝れ) …… 나외(義城、浦項、盈徳)
외야외(啄ん) …… 외야외(尙州、開慶、成昌、興海、浦項、盈徳)

此の變化の現象も他道にも屢々存するが決して偶然的のものではない。此等の活用語中に存する야又は야なる文字は古き諺文の綴字にありてはすべて「△」なる文字を以て書き表はされたものである。而して「△」なる諺文の音價に就いては從來各種の説が行はれて居るが、余はyaに於けるyと同一價値を有して居るものと考へる。其のyaなる音が轉訛して或は야となり或は야となつたものと信するのである。余が慶尙方言の語學上價値ありと認める所以の一は此の點に存する。

○「學校에 가야 하겠다」(學校へ行か)「그칙을 보아야 한다」(其の本を見)等に於ける야を慶州・安東地方では사といひ、「學校에 가사 하겠다」(學校へ行か)「그칙을 보아사 한다」といふ。此の

사なる助詞は古書に

이러한時節에야工夫히들어드리라(如是之時工夫得力)(蒙山法語)

나거야스르니이다(迨其出矣江沙廻沒)(龍飛御天歌)

などある야の轉訛したものと信する(△の音價に關しては前條の記事參照)。吏讀に

「去沙」遣沙「良沙」などいふ沙(音사)、古諺解に

天道를欽崇하야사기리天命을保하시리이다(書傳諺解)

精き며一하야사진실로그中을執하리라(同前)

などある사는、何れも古語の面影を忠實に保存せるものといふを得べく、今日の야(音ya)が야より直接轉訛せるものなることも、解釋上何等の滯滞を來さぬのである。

又稍々古き朝鮮語に

엇더하야야健壯하사르를어더(安得壯士…)(杜詩諺解)

치운후에야소남기후에여려디를일리라하니(歲寒然後知松柏之後凋也)(二倫行實)

等の如く야を用ひて居るのであるが、これ等の야も同一系統に屬する語と認むべし。

である。

○니셔 京城地方では目上に對する問には普通に합니셔 (하옵니셔の略) 헛습니셔 (하얏습니셔の轉) 하갓습니셔 (하갓습니셔の轉) 等の如く語幹(한다·간다의하·가)에음·습等を附し、니外を接續する形を用ひるが、慶尙北道榮州·醴泉·安東地方では

現	在	過	去	未	來
하니셔	하니셔	헛니셔	하니셔	할니셔	할니셔

等の如く語幹の下に直ちに니셔を附した形を使用する(但し義城地方では하니셔, 헛니셔。江原道海岸中慶尙北道に接壤せる蔚珍·平海地方にも此の語の存することは(三陟地方の如く하)地理的關係に基くもので、言語分布上頗る興味ある事實といはねばならぬ。斯の如く니셔なる語形は今日にありては單に一地方に限つて使用せられて居るが、これは古語の用法である。即ち

하나빌미드니잇가(皇祖其恃)(龍飛御天歌)

엇더하니잇고(果何如其)(龍飛御天歌)

이케엇데三乘行人이쓰能히免디물하니잇고(今에何得三乘行人이亦未能免

이잇고(圓覺經)

等ごある니잇가·니잇고の如きは本條に於ける니셔の根原をなすものである。

○니더 前條니셔に對するもので、答の場合に用ひられる。即ち京城地方では합니다·헛습니다·하갓습니다等の如く語幹에음·습を附し니다を接續するのであるが、慶尙北道榮州·醴泉·安東·青松·義城·興海·浦項·盈德·慶州地方では

現	在	過	去	未	來
하니더	하니더	헛니더	하니더	할니더	할니더

等の如く語幹の下に直ちに니더を附した形を探る。江原道平海·蔚珍地方にも此の語形の存することは地理的關係に基くものである。又未來を表はすに慶尙道醴泉地

方及び江原道平海・蔚珍地方に하나다의如く又を用ひる所もあるが、これは本來の用語ではない。

의더は前條의더と同じく今日にありては單なる方言と認められて居るが、これまた古語の面影を傳へたものである。例へば

나려치나이다(忽焉自起) (龍飛御天歌)

聖孫을내시나이다(聖孫出兮) (同前)

大瞿曇이일우나이다(月印于江曲)

帝이이희擧하실디나이다(書傳諺解)

とある나이다は本條に於ける의더の原形をなすものである。而して此の나이다が後世に至れば

아름다와하님이다(芽出度うこそ御座れ) (捷解新語)

案内님이다(案内こそ申まるする) (同前)

の如 님이다に變じ、又

조스시미웃들이오님이다(従はしらるが先でござる) (捷解新語)

대되無事하님이다(何れも無事に御さる) (同前)

の如く님이다に轉することは、朝鮮語の歴史的な研究上最も興味ある事實の一である。

○시더 京城で目上に對して「하갓습니다」(爲ませう)、「벗이을시다」(筆でございま)など

いふ場合に慶尙北道榮州・醴泉・安東・青松・義城・興海・浦項・盈徳・慶州地

方では「할시더」「할참이시더」(以上)、「벗이시더」(以上名詞の下)の如くいふ。江原平海、蔚珍

地方にも此の語法が存するが之は慶尙方言の影響を受けたものである。

余は方言中に存する此等の시더を解釋して할시더は하을시다の縮約、할참이시더

は할참이을시다の縮約、벗이시더は벗이을시다の縮約せるものと認める者である。

今其の理由を述ぶるに先だち을시다の을及び시는語原的に如何なる語であるかを

考へて見たい。余の信する所では을の오는「그사람이오」(其人)などの오と同じく

目上に對して敬意を表して物をいふ場合の所謂謙讓の助動詞である。뜻스와(承り

て)업스와(御座いま)等に於ける와も此の助動詞の中止形に當るもので、을시다の을

は其の連體形(합것(爲すべきもの)을 보(見る)에)に當るものと認めるのである。又시は古くは「もの」又は「事」を意味した軽い意義の名詞であつたが、後には單に助詞の如く使用せらるゝに至つたものと考へられる。即ち古書に

寂靜은 괴외홀씨라 (月印千江曲)

諸法을 다 벗아 르실씨라 (徹了諸法也) (法華經諺解)

因緣이 서로 미磁石이 바늘힘을 홀씨라 (圓覺經諺解)

豁은 開通홀씨라 (杜詩諺解)

그 홀씨를 마장未審히 너기 읊네 (其しだらをいかう不審にこそ存すれ) (捷解新語) などある外及び시は茲に述べんとする을시다の시に當るものである。兩者とも시(又は外)の上に다で終る連體形を承ける事實に照しても其の誤無きを知るに足るであらう。

要するに을시다は오なる謙讓の助動詞을に시(又は外)なる名詞の接續した形に起原せるものといふを得べく、慶尙方言に存する할시더の形は正に古語の遺風を忠實に

傳へたものといふべきである。又할참이시더(참은한참(暫時)などいふ場合の참と) 是이시더(同語で、もとは純然なる名詞である) 是이시더を一に할참이을시더、是이을시더といふに照しても시더가을시다の縮約たることを推知するに足るであらう。

○다。京城地方では未來をあらはすに普通하것습니外・하것소・하것다等の如く것なる助詞を用ひるが、慶北方言特に東部地方にありては多く다의形を用ひる。

	目上に對して	同輩に對して	目下に對して
問	할나니셔, 할나느기오	할나느가	할나나
答	할나니더	할나오	할난다

勿論此等の地方とても것の形を用ひぬではないが、之は寧ろ外來の分子と考へられて居る。元來此の것なる形は今日にありては標準語として最も廣く通用せられて居るが、以前にありては標準語としての勢力が存したか否か頗る疑はしい。それは此の것の形が近頃まで各種の文獻上に現はれることが稀であつたやうは思はれるから

である。

○^二나하 前條の^二나하同一意義で、多く東部地方に於て用ひられる。

	目上に對して	同輩に對して	目下に對して
問	할낙하녀져	할낙하는가	할낙하나
答	할낙하녀더	할낙하오	할낙한다

此の^二나하なる形は恐らくは未來をあらはす^二타なる助詞に^二고なる助詞が附き、^二고한다となつたものの轉訛したものであらう。江原道では平海地方に行はれる。
○^二는기오 目上に對する間に用ひられるもので、京城地方でいへば^二합니外・^二했습니外・^二하것습니外といふに同じである。

現	在	過	去	未	來
하는기오	하는기오	했는기오	할낙하는기오	할낙하녀져	할낙하녀더

但し尙州・開慶・浦項・德・慶州地方では^二는기오といふけれども、青松・義城地方では^二는기, 興海地方では^二는기오といふ。

^二는기오はも^二는것(もの)이오の轉訛したものであらう。隨つて他道では^二는기오又は^二는게오を^二는것이오の義に使用する所があるけれども、本道に於けるものは^二는斯る意義なく純然たる問の語として使用せられるのである。

○^二시소 京城で^二하십시오といふ如く目上に對する願望的命令をあらはす場合に^二하십소といふ。之は道内到處に廣く使用せられる語であるが、其の用法は

잘드르시소(よう聞かしられ) (捷解新語)

하를마르시소(御免なされ) (同前)

이보시소 (普勸文)

等古くから存して居る。

以上は慶尙方言中の^二二三の事象を捕捉し、之が歴史的價値を攷究したのであるが、固より其の精を盡したものと^二いふことが出来ぬ。希くは同學の士、本篇の足らざる

所を補ひ、共々に朝鮮語の歴史的調査に向つて研究の歩武を進められんことを。

一一 朝鮮語の歴史的 research 上より見 たる 濟州島方言の價值

余は明治四十四年全羅南道濟州島に赴き、方言の調査に従事し、其の結果を大正二年三月發行の「朝鮮及滿洲」誌上に發表したことがある。併しながら當時に於ける朝鮮語に對する余の知識は今日以上貧弱なものであり、同島方言の學術上の價值を云々するに足る自信と勇氣とを有しなかつたので、幾多の貴ぶべき資料は徒らに篋底に藏せらるゝ状態にあつた。然るに其の後余は各地に亘つて方言を調査する便宜を與へられ、又多少朝鮮の古書に就き朝鮮語の歴史的變遷をも考察する機會を得つゝあるので、篋底の至寶を空しく放置することの、自己の責任を永遠に果さざるの譏りを免るゝ能はざるを感じ、自ら良心の呵嘖に苦しめらるゝこと久しきに亘つた。余が茲に該島方言の語學上の價值に就き一言し、江湖の叱正を仰がんとする所以も、此の點

に存するのである。此の小篇たる余の現在に於ける朝鮮語に對する淺薄なる知識より割り出されたものであるから、固より誤謬の多かるべきを覺悟して居る。余は此の點に就いては今後自ら研究の歩を進め幾多の補正を加ふべき機會の到來することを信じて居る。

本島の方言を論ずるに當つては、之を音韻・語彙・語法の三方面から觀察する必要がある。

音韻に關しては特に論ずべきこととは無いが、諺文「・」の發音は大いに注意を要すべきものがある。「・」は現在半島大部分の地に於ては「よ」と同様に發音せられ、或る一部の地方に於ては「お」と同様に發音せられる。例へば馬(馬)・豆(小豆)の如き語は朝鮮大部分の地に於ては「말・팥」と發音せられるが、全羅南北道・慶尙南道の或る地方にありては「말·팥」の如く發音するのである。然るに濟州島に於ける「・」は「아」にもあらず「오」にもあらず、어と오との中間音である。元來「・」の原音の如何なるものであつたかに關しては從來種々の説が行はれて居るが、余の信する所では「오」或は「우」

類似の中間音でとつたと考へる(之に關しては細論があるが、今は煩を避けて省略する)。而して本島に於ける「・」の音價の如きも之が結論の一證となり得るものと信せられる。即ち濟州島に於ける「・」の發音は朝鮮語の音韻發達史上頗る重要な位置を占めて居るものといふことが出来るのである。

濟州島方言の語彙に關しては注意すべきことが少なくない。即ち本島の言語が半島内地の言語に比して大いに異なるものあることは古くから説かれて居るが、今日に於ても種々の事物名稱の京城地方と異なるものが少なからず存して居る。今其等の單語を茲に列擧することは甚だ興味あることではあるが、一々其の煩に堪へぬから本篇に於ては單に本島方言中に含まれて居る蒙古語のことに就き一言しようと思ふ。由來濟州島は古く耽羅島と稱し獨立國の状態を呈して居た。高麗元宗の時金通精本島に據つて反するや、高麗は元の援によつて辛うじて之を平定することを得た。當時高麗は全然元の勢力の下にあり、本島も永い間元に服屬したので、朝鮮全土は著しく元の文化の影響を受け、蒙古語の朝鮮語内に取り入れられたものも少なくな

かつた。彼の忠宣王公主が元より還るや、元より持ち來れる各種の財物器具の名稱が多く蒙古語を以て呼ばれたなどいふ記事(高麗史)に照しても其の一斑を窺ひ知るに足るであらう。今日朝鮮語で王者の御膳を水刺(수리)と稱し、其の起原は蒙古語であるとせられて居るが、濟州島では今尙ほ目上の人の食事を一般に수리といふ。殊に注意すべきことは忠烈王の時に元が特に本島を以て牧馬場とし多數の馬を放つた關係から、本島は馬の産出を以て有名となり、馬の種類の名稱の如きも朝鮮内地には存せざるもの多く、しかもそれらが明かに蒙古語起原のものであることを知るのは、語學上誠に興味ある事實といはねばならぬ。今朝鮮に於て刊行せられた「譯語類解」(康熙二十九年)「蒙古老乞大」(乾隆六年)「星湖僊說」(肅宗の頃の著)「山林經濟」等の諸書にあらはれて居る馬名と濟州島方言中に存する馬名とを比較する時は、次の如き結果を得ることが出来るのである。

蒙古(蒙語老乞大) 語(大所載)	譯語類解	蒙語老乞大	星湖僊說	山林經濟	濟州方言
하마소리	黑馬소리	하마	黑色謂之驢俗謂之加羅	黑加羅	하마말(毛青)

우렁모리	栗色馬(栗毛)	갈랑말	栗毛(栗)
花馬(花斑馬)	花馬(花斑馬)	花肚(花斑)	花肚(花斑)
赤馬(赤毛)	赤馬(赤毛)	赤肚(赤毛)	赤肚(赤毛)
赤色謂之騾	俗謂赤多	적다(赤多)	적다(赤多)

此等は一二の例を挙げたに過ぎぬが、決して偶然の類似と見做すことが出来ぬ。此等は何れも高麗時代に傳へられた蒙古語の遺物といふことが出来るのである。次に語法の方言的調査は從來世人から非常に疎んせられて居たが、濟州島方言の一特質は此の語法の點にあると斷言しても差支ない。故に本篇に於ては此の點に就き項を分つて説明を加へようと思ふ。

一、ロ

現在を表はすに用ひられるもので、次の如くいふ。

問	目上に對する場合	同輩に對する場合	目下に對する場合
答	하염수외	하염주	하염되
問	하염수다	하염주기	하염되야
答	하염수다	하염주	하염되

(右の外 하염수외・하염수니씨(目上に對する問)・하염수다(目上に對する答)・하염신가(同輩に對する問)・하염외(同輩に對する答)等の如く敬語の人を挿入した)ものもあるが、これは京城語の影響を受けたもので純粹の濟州方言ではない。此の口形の起原は何であるかといふに、余は動詞の名詞形と考へたい。即ち 하염수다 は 하염소이다の轉(소이다は今日이로소이다。옛소이다等の如くい로又は過去の人等の下に用ひ) 주 하염(이)되(의條)の略轉と見做したのである。

二、키여・쿠다

未來を表はすに用ひられるもので、次の如くいふ。

問	目上に對する場合	同輩に對する場合	目下に對する場合
答	할쿠가	할겐가	할키여
問	하쿠가	하겐가	하키여
答	하쿠다	하겐가	하키여

쿠・겐・키는同一起原の語である。쿠다는키우다(우다の條参照)の轉であらう。今日慶尙北

道義城・盈德・慶州地方の方言に未來を表はすに 하거마、全羅南道一部の方言に同じく未來を表はすに 하키라오なる用法が存するが、此等の 거・키는本條の 쿠・키等と關係あるものではなからうか。

三、우外・우다

目上に對して用ひる語で、합니外・합니다・붓입니샤・붓이 올시다等の 니니샤・니니다、올시다に當る語である。

問 (하우샤
붓이우샤)

答 (하우다
붓이우다)

(하우샤・하우다는아영하우샤(かう致しませんか)기영하。
우다(さやう致しません)のやうな場合に多く用ひられる)

하우다・붓이우다의 우다는謙讓の助動詞오이다(하오이다
붓이오이다)の轉とすべきか、又は古書に未曾有을得호이다(妙法蓮華經)

내敢히宿지 못샤야 公文王과武王의禮호이다(書傳諺解)

아름다오미禮메더미이다(めでたき禮に餘つてこそ御ざれ)(捷解新語)

싱각호느마음이 나즐날이엄치이다(想念之心無日有忘)(朴通事諺解)

などある이다の轉とすべきか未だ確信を得ぬ。而して疑問하우外・붓이우外等に於

ける우外も前項오이다・이다の疑問形であるやうに考へられるけれども、未だ文獻上に其の用例を發見することが出来ぬ。姑く以て後考を俟つ。

四、수外・수다

前條と同じく目上に對して用ひる語で、現在及び過去に存し、現在にありては語幹の終聲口の下に、過去にありては人の下に附く。

		現	在	過	去
問	하엿수外				
答	하엿수다			하엿수外	하엿수다

하엿수다・하엿수다に於ける수다는

이예夏人正을革호소이다(爰革夏正하소) (書傳諺解)

나킷다소이다(忘れまるして御座つた) (捷解新語)

디하여글오디장우로소이다(對曰張禹) (五倫行實)

等に於ける소이다の轉の如く考へられるけれども、疑問の수外に當る소以外の如き

形を文献の上に發見することが出来ぬ。今日慶尙北道の大部分及び江原道蔚珍地方の方言に「一緒に何々をしませう」といふ場合に하시더라（三陟、平海蔚珍地方）といひ、慶尙北道の大部分及び江原道の一部（蔚珍、平海蔚珍地方）に於て未來（目上に對して）をあらはすに할시더라（蔚珍、平海蔚珍地方）といひ、江原道三陟地方で過去（目上に對して）をあらはすに했더라（蔚珍、平海蔚珍地方）といひ、慶尙北道の大部分及び江原道の一部（蔚珍、平海蔚珍）に於て「筆で御座います」の如く名詞の下に敬語の「なり」を附する場合に하시더라（蔚珍、平海蔚珍）・소더라（蔚珍、平海蔚珍）は本條の乎다と起原を同じうするものであらう。

五、되

同輩又は目下に對する問に用ひられる。

現	在	過	去	未	來
하얌되, 하얌되야	한되, 한되야	했되, 했되야	할되야		

되（야の條参照）は疑問をあらはす助詞、야（야の條参照）も疑問をあらはす助詞（야の條参照）であつて、되야は二者を重用したものである。

되（야の條参照）は今日に變じたけれども、異なる原形を傳へたものである。古書に

그려온디（さう御座るやら）（捷解新語）

엇디녀갈디（いかがおぼしあるやら）（同前）

などある디は何れも疑問の助詞である。

尙ほ此の되（야の條参照）は本島にありては한되야（야の條参照）한되인（야の條参照）等の如く用ひられ、特殊の意味をなすことがある。

六、건되

動詞の下に付き「何々してより以來」の義をあらはす。即ち

보건되가오래나외（見てから久しいから……）

오건되가몇해가됨수외（來てから幾年になりますか）

の如く用ひるものである。古く

마미어즈럽건디야마오랄시니라（心緒亂已久）（杜詩諺解）

門의나건디나리야마머니（出門日已遠）（同前）

とある^二。この^一は本條の^三의의原形であつて、의の^四지に變化せぬ點が古形を存する所以である。

七、^五쥬・^六쥬기・^七쥬

何れも答に用ひられる助詞で、^八쥬及び^九쥬기는同輩に、^十쥬は目下に對して用ひられる。

	現	在	過	去	未	來
同輩に	하엿쥬, 하엿쥬기	하엿쥬, 하엿쥬기	하엿쥬, 하엿쥬기	하쥬, 하쥬기		
目下に	하엿쥬		하엿쥬		하지	

^{十一}쥬及び^{十二}쥬は京城語の^{十三}지に當る助詞である。又^{十四}쥬기의^{十五}기はもと動詞の名詞形を作るに用ひられる語であるが、^{十六}こゝでは命令的に意味を強めるに用ひられたのである。

八、^{十七}야

目下に對する問に用ひられる。

	現	在	過	去	未	來
함디야			헨디야		할디야	

疑問の助詞^{十八}야の轉であらう。本島の外疑問に^{十九}야を用ひるのは余の今日までの調査範圍では江原道の東部地方である。

九、^{二十}디야

目上に對する願望に^{二十一}함^{二十二}쥬・^{二十三}감^{二十四}쥬の如くいふ。

一〇、^{二十五}사

감디사물으쿠다 (行くかも知れぬ。現在)
 간디사물으쿠다 (行つたかも知れぬ。過去)
 갈디사물으쿠다 (行かうかも知れぬ。未來)

等の如く使用される^{二十六}사에서、本來は「こそ」の義を有する^{二十七}야の古語であらうと信ずる。
^{二十八}야の古語が^{二十九}사であつたことは幾多の證がある。

一、吏讀・鄉歌等にある「去沙」・「遣沙」・「良沙」・「沙餘良」等の沙は音サで、後世のヤの用法に合致すること。

二、諺文の古い使用法に於て

나거야스마니야(追其出矣) (龍飛御天歌)

이리호時節에야工夫호를어드리라(如是之時工夫得力) (蒙山法語)

の如きヤの用法があるが、これがヤ(こそ)の原形をなすものである。元來△なる諺文は支那韻學に於ける三十六字母中日母に宛てられた文字で、聲音學上Jの音價を有するものである。ヤの前項の沙(サ)と同一語であることは勿論であつて、それが一轉してya(ヤ)となることも想像するに難くない。

三、經書其の他の諺解に

帝曰母^라惟汝^사諧^라母^라라、네^사諧^라리^라(書傳諺解)

厥^母慶^母一慶^母自洗^腆致^用酒^라(ユ父母一慶^母거^사스스^로洗^호며腆^호야酒^를致^호야用^호라)(書傳諺解)

최^존하、엇^더하^여사^부모^의은^즈갑^소오^라잇^고(惟願世尊哀愍救拔云何報得父母深恩)(父母恩重經)

の如きサの用法がある。これまた「こそ」の義を有するもので、前々項の「沙」と同一語に屬し、前項ヤと密接なる關係を有するものである。

四、今日慶尙北道地方の方言に「보^아야^한다」を「보^아사^한다」、「먹^어야^한다」を「먹^어사^한다」といふ。此等のサは勿論「こそ」の義を有するもので、前諸項にある沙・ヤ・サの古形を其のまゝ傳へたものである。

要するに今日「こそ」の義を有する係りの助詞ヤはもと沙・ヤに起原を發し、慶尙北道地方にサの形として殘存するのであるが、濟州島に於けるサも此等と同一起原を有するもので、古語の面影を傳へたものである。

一一、래・랜

主格をあらはす助詞ガの意義に使用される。例へば

쇠^래풀^을먹^는다(牛が草を食ふ)

누게라[○]하지말[○]라[○]답[○]테[○]다 (誰が爲てはならぬと言ひましたか)

といふが如きこれである。平壤地方でも라[○]といつて此の用法が存するさうである。라[○]の意味を強めていふ時には[○]라[○](末音の[○]ラには[○]ラの義がある)ともいふ。或は反對に[○]라[○]は[○]라[○]の縮約ともいふことが出来よう。[○]라[○]は吏讀に

流罪人矣家口乙[○]良[○]不許聽還爲乎事(大明律)

吹鍊者乙[○]良[○]每日吹鐵三斤式以捧上各封裹上納(同前)

とある「乙[○]良[○]」(을[○]라[○])、又古語に

이[○]劫[○]일[○]후[○]프[○]란[○]賢劫이라[○]하[○]치[○](月印千江曲)

북[○]대[○]우[○]르[○]는[○]소리[○]란[○]버[○]들[○]드[○]르[○]리[○]로[○]소[○]니(風號聞虎豹)(杜詩諺解)

나[○]들이[○]란[○]マ[○]장[○]잘[○]것[○]느[○]물[○]을[○]가[○]쳐[○]오[○]라(我騎的十分快走的馬將來)(朴通事諺解)

모[○]시[○]기[○]란[○]호[○]리(お供こそしまるすれ)(捷解新語)

等とある[○]라[○]に當る語と見るべきである。

一一、엔[○]·랜[○]·외[○]엔[○](된)

엔[○]は

올[○]키[○]엔[○]답[○]테[○]다 (來ようございました)

오[○]키[○]엔[○]답[○]테[○]다 (同前)

の如く使用するのであるが、其の起原は古書に

北方엔[○]多聞天王이니云々 (月印千江曲)

마[○]를[○]마[○]인[○](江洛)(杜詩諺解)

などある場所又は時をあらはす助詞엔[○](어[○]고[○]는[○]고[○]の縮約)であらうと思はれる。

一二、랜

랜[○]は命令をあらはす[○]라[○]なる助詞に、前條の엔[○](는[○]の義を含む)が附いて縮約せられたもので、하[○]라[○]는[○]·가[○]라[○]는[○]の原義を有するものと思はれる。用法は次の如くである。

장[○]보[○]랜[○]하[○]염[○]수[○]다(行つて見よと言ひます)

먹[○]으[○]랜[○]하[○]엿[○]수[○]다(食へと言ひました)

一四、외[○]엔[○]·된

疑問の助詞의(其の條)に前に述べた엔(其の義を含む)が附くと되엔又は되든となる。同輩に對して用ひ、가니냐고물었소(行くかと問うた)等のニ냐고に當る。目上に對しては권을を用ひる(其の條)。

언케오랜되엔(又된)드림데다(何時來るかと聞いた)。

무사아니간되엔(又된)편지가왔수다(何故行かなかつたかと手紙が來ました)。

무엇을홀되엔(又된)물었쿠다(何をする積りかと聞きました)。

一五、젠

目的をあらはす助詞자に는なる助詞が添加して縮約せられた形である。가랴고호다(行かうと思ふ)等の랴고に當る語である。

셔나젠하염수다(出發しようと思ひました)。

죽젠하다사랴수다(死なうとしたが生きかへりました)。

장보젠해나, 버못보게합데다(行つて見ようとするけれども、私の見られぬやうにしました)。

一六、간

다가(何々したが)の「たが」に當る)なる助詞に는が附いて縮約せられた形である。

새각하젠하단, 못되엿수다(考へようとしたが出来ませんでした)。

가칸, 맛나수다(行つたが遇ひました)。

一七、센・셈

命令形되되(其の條)に는が附いて縮約せられた形で, 감시사고……의日시사고に當る語である。用例は次の如くである。

감셈, 감되(行かれよと言ひなさい)。

하심셈, 하염수다(爲さいませと言ひます)。

一八、매・매

これは餘り多く用ひられぬ語であるが、「であるから」、「である故に」(니까・기에)の義を有する。

내친구매(私の友人であるから)